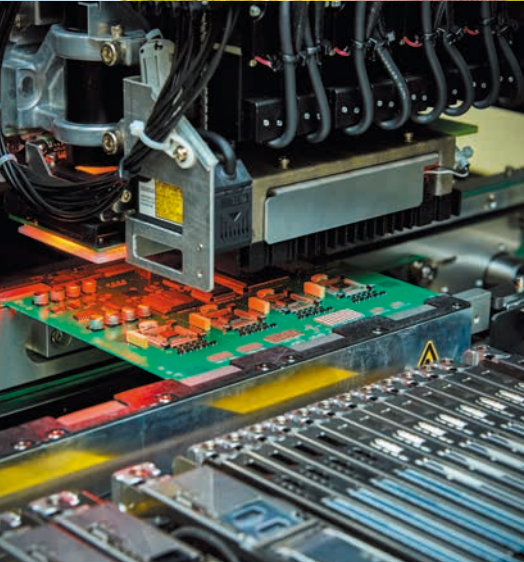
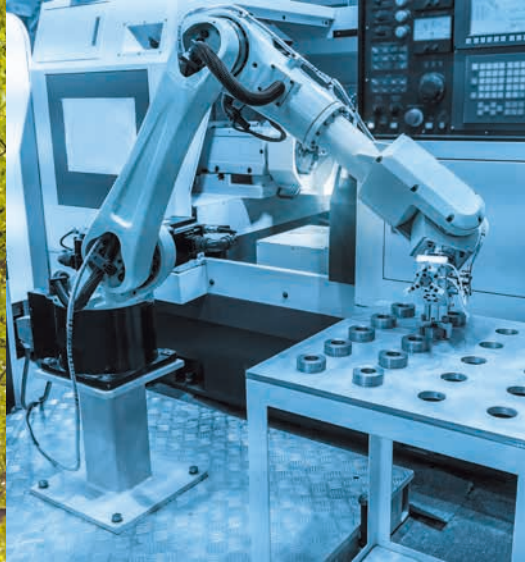


選ばれるソリューションパートナーへ Global & Innovative

1938年の創業から今日まで、JUKIは世界の産業界に最高品質の製品とサービスを提供し、持続的な成長を実現してきました。発展の原動力となったもの、それは「すべてはお客様のために」という思いです。

イノベーションを越える製品開発へのチャレンジに加え、お客様工場ラインの生産性を飛躍的に高めるソリューションでお客様の価値創造に貢献します。世界180カ国にお客様を持つグローバル企業として、JUKIは、進化と変革のDNAを堅持しながら、グローバルでイノベティブな挑戦をこれからも続けてまいります。



事業領域

CONTENTS

JUKIとは

- JUKIの思い 2
- 事業領域 4
- JUKI製品を使ってつくれるもの 6
- 社長インタビュー 8
- JUKIの企業価値創造 14

JUKIの事業

縫製機器&システム事業

- 工業用ミシン事業 16
- 家庭用ミシン事業 20

産業機器&システム事業

- 産業装置事業 22
- グループ事業 26
- カスタマービジネス 28

JUKIの価値創造

- 技術開発力 30
- 生産力 34

JUKIのESG

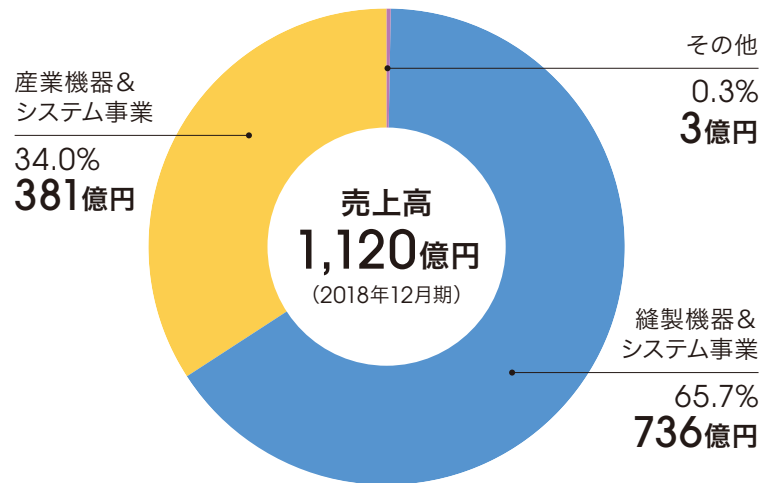
- ESGの取り組み 36
- 「E」環境への取り組み 37
- 「S」社会への取り組み 42
- 「G」ガバナンスの取り組み 48

データセクション

- 財務データ 50
- 沿革 54
- JUKIのグローバル拠点 56
- 会社概要および株式情報 58

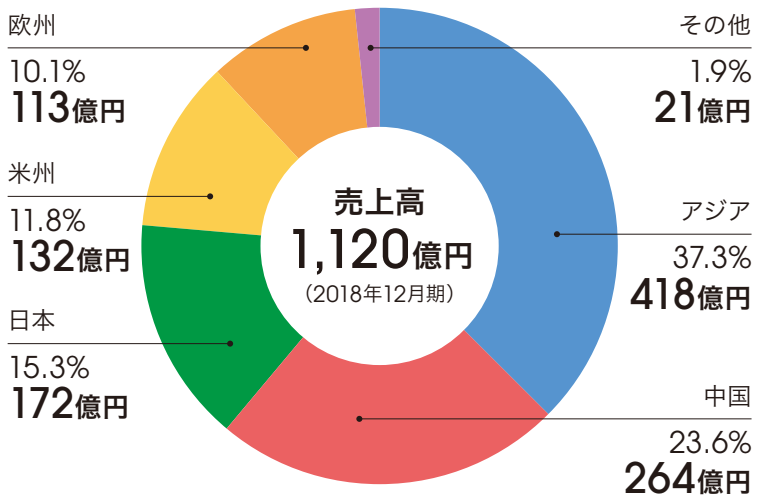
事業別売上高割合

JUKIは先進の技術・価値ある技術で世界のものづくりを支えています。



地域別売上高割合

世界約180カ国以上をカバーする販売・サービスネットワークで、世界中のお客様から強い支持をいただいています。



世界のお客様のイノベーションに貢献する JUKI Smart Solutions

縫製機器 & システム事業

2,000機種以上のマシンやシステムで、プロ用から趣味層まで、あらゆる“縫い”をサポートする事業です。

工業用マシン事業



縫製機器の業界を
牽引する世界トップの
リーディング事業

世界トップシェアの工業用マシンを中心に、自動化装置・ITシステムなどと組み合わせて、最適な縫製工場作りをお手伝いさせていただく事業です。生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上などに、ラインソリューションでお応えします。

家庭用マシン事業



Home Sewerの
創造性を刺激する製品を
提供する事業

工業用マシンの性能を取り入れた確かな製品力で、快適なソーイングライフをサポートする事業です。様々なワークショップを開催し、幅広い分野の趣味層を応援します。

産業機器 & システム事業

永年培った“ものづくり力”を生かし、製品やシステム、開発力・製造力でお客様の生産工場をサポートする事業です。

産業装置事業



基板製造工場を
トータル・ソリューションで
サポートする事業

電子基板生産における表面実装装置や印刷機、検査機などの関連商品を中心に、多様化する生産ニーズに生産性・効率化を追求したラインソリューションでお応えする事業です。

カスタマービジネス



世界中で活用される
JUKI製品を最適な稼働状態
にサポートする事業

世界180カ国で活用されている工業用マシンと産業装置を、パーツ供給やマシンのリモートコントロールを通じて、より良い環境でご使用いただけるように、サポートする事業です。

グループ事業

グループ事業(受託開発・製造事業)



「人・設備・方法・
材料」の総合力で
製造会社をサポート
する事業

JUKIグループ各社が、主要製品を生産する中で培った開発・設計・生産・生産管理のノウハウを生かして、様々な製品の開発・製造・加工などを受託する事業です。

スリープバスター



安全な走行を
サポート

居眠り運転警告装置やそのデータを活用し、安全・安心な走行の習慣化を促進するための事業です。過労運転防止や交通事故の低減に貢献しています。

データエントリーシステム

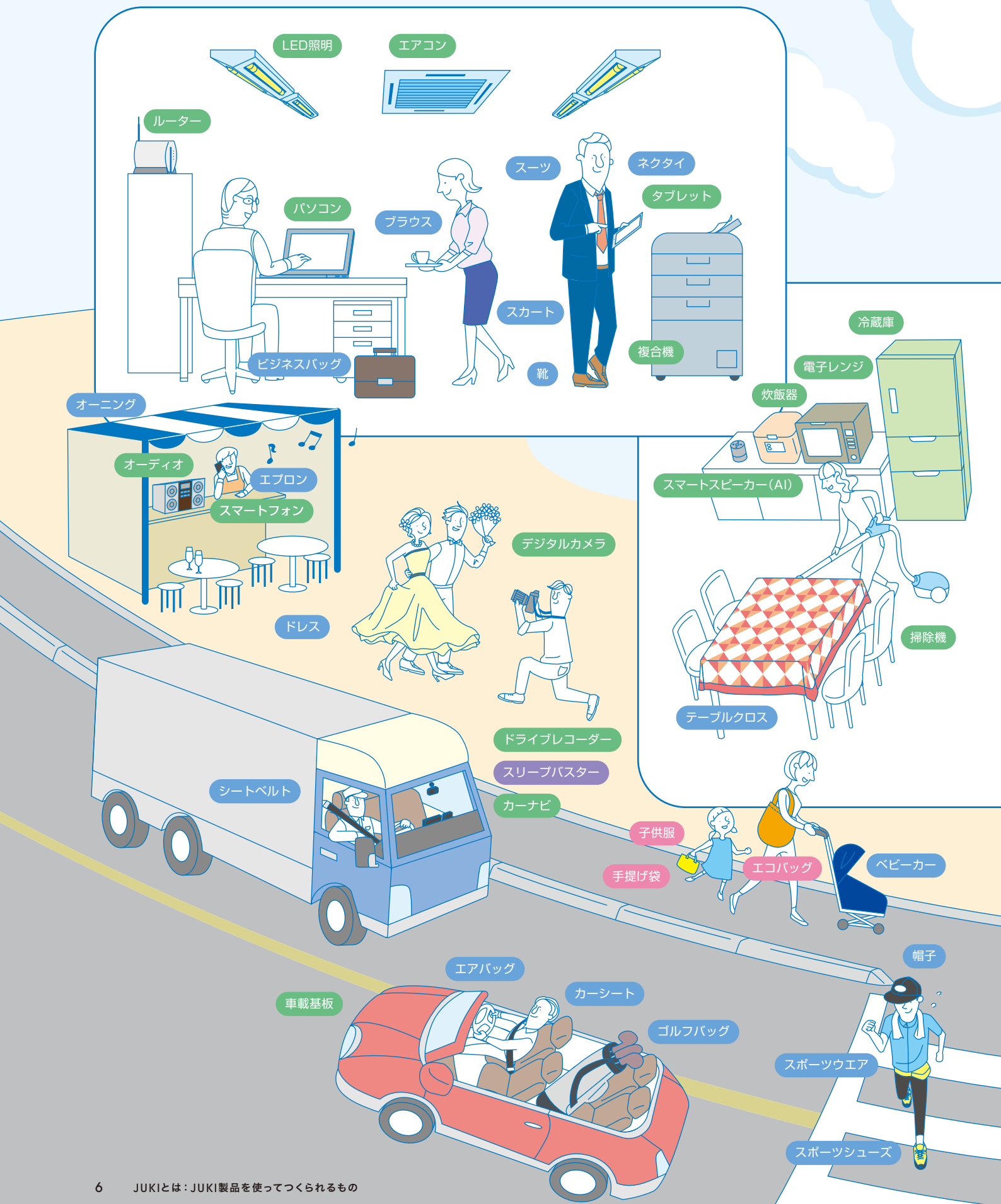


データ入力のプロ
をサポート

工夫された入力システムで、大量のデータを処理する情報処理産業をサポートする事業です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界のニーズに対応しています。

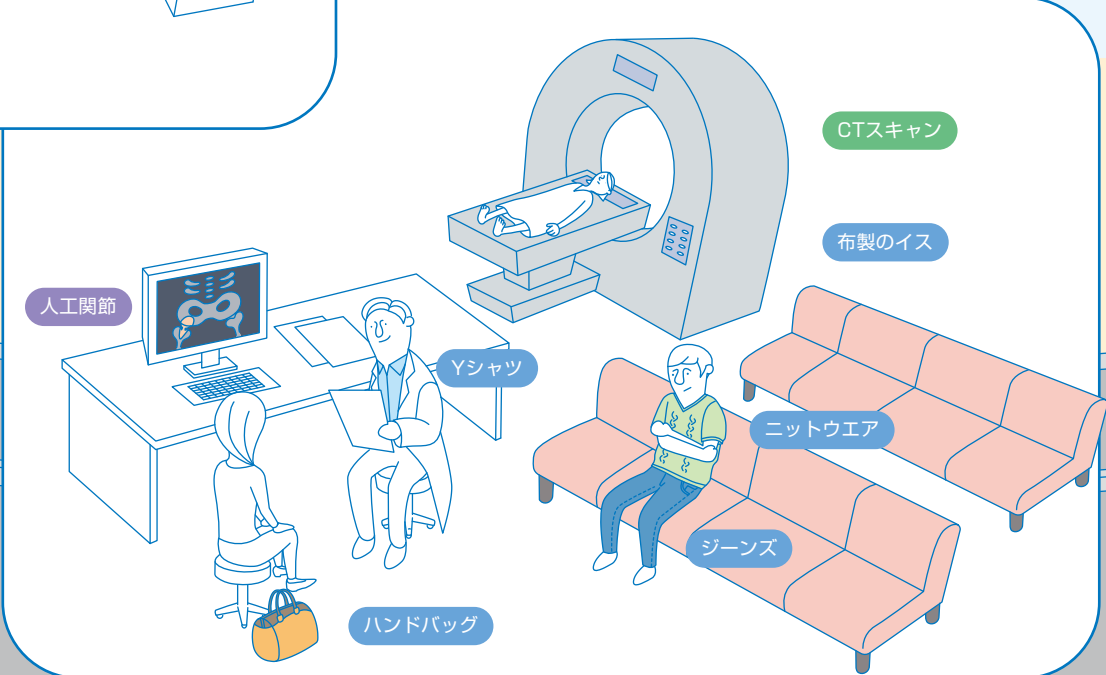
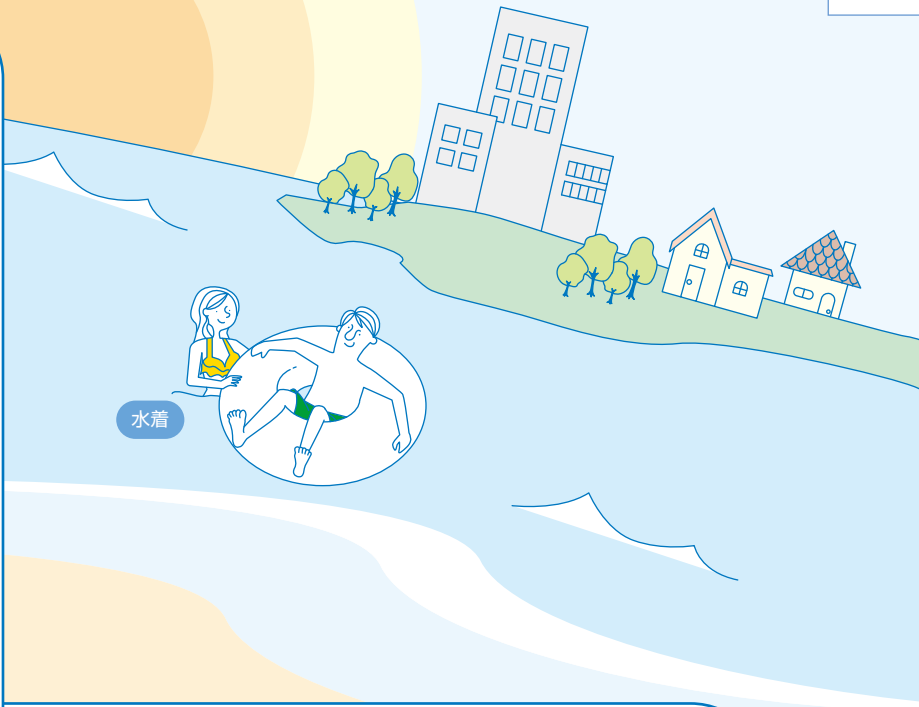
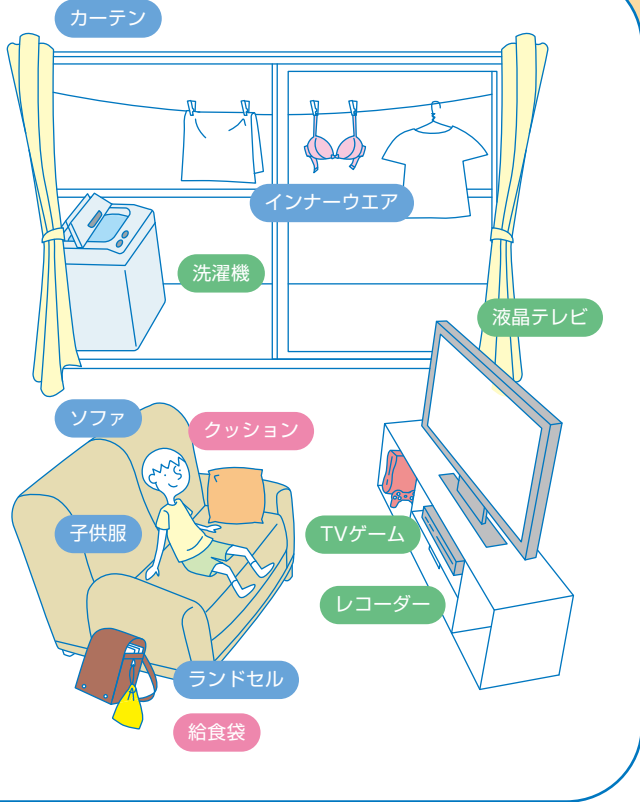
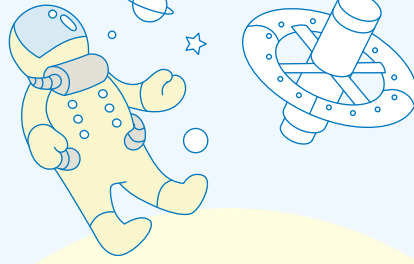
JUKI製品を使ってつくられるもの

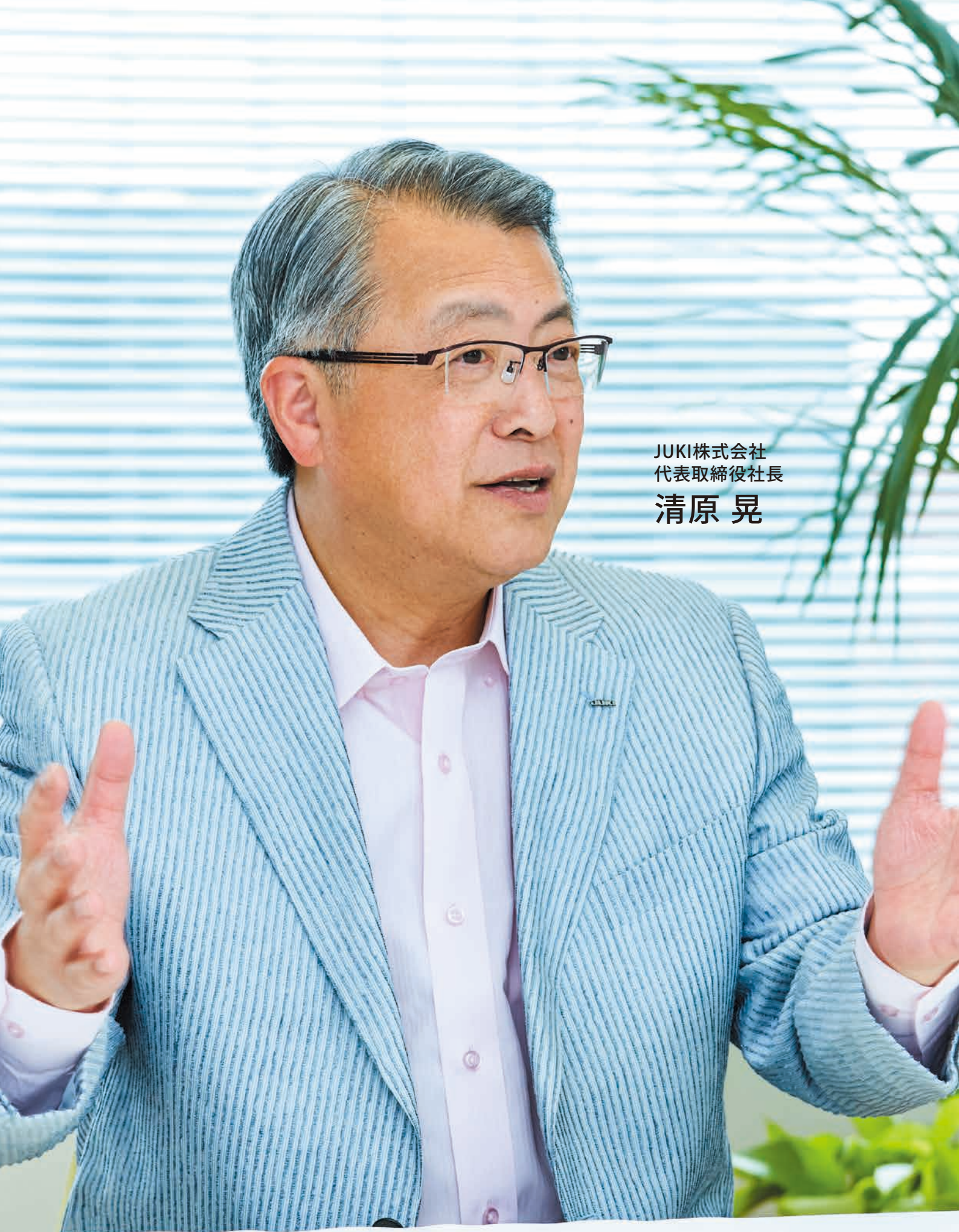
JUKIの製品を使って、こんな身近な“もの”が生まれています



- 工業用ミシンを使ってつくられるもの
- 家庭用ミシンを使ってつくられるもの
- 産業装置を使ってつくられるもの
- グループ事業によってつくられるもの

宇宙服





JUKI株式会社
代表取締役社長
清原 晃

社長インタビュー

グローバル&イノベティブな視点で オープンイノベーションを活用し、「ものづくり企業」から 「ことづくり企業」への転換を加速する

世界経済の変動やIoT、AIをはじめとする先端テクノロジーの進展や技術革新など、企業経営を取り巻く環境は日々大きな変化を続けています。そうした中でJUKIはどのような成長シナリオを描いていくのか——。創立80周年の節目を越え、JUKIグループの取り組みと中長期戦略について、若手社員5名が清原社長にインタビューしました。



●インタビューア—

新たな価値を創造するラインソリューションで お客様に選ばれ、信頼される「100年企業」へ

——2018年度の連結業績は前年と比べて増収増益となりましたが、その要因と成果をあげた取り組みについてお聞かせください。

2018年12月15日にJUKIは創立80周年を迎えました。今日までJUKIを支えて下さった全てのステークホルダーの皆様、あらためて感謝いたします。昨年1年間を80周年の活動期間と位置付けて様々な取り組みを展開しましたが、国内外のお客様やお取引先様、株主様などに対して、これまでのJUKIの歩みや考え方、これからの取り組みなどを広くPRできたことが、まず大きな成果として挙げられます。また、このことを通じて、若手や中堅社員の経営参画が進んだことも成果として挙げられます。

全体の業績ですが、これまで注力してきた中国・アジアを中心とする海外での販売や産業装置事業が好調に推移したことに加え、受託加工などのグループ事業が伸長したことにより、売上高が1,120億円、経常利益83億円、当期純利益66億円と増収増益を達成することができました。これを受けて、普通配当も5円増配し、一株あたり30円とし株主の皆様へ還元することができました。市場環境としては、スマートファクトリーの実現に向けたお客様の設備投資の高まりがJUKIのビジネスに追い風となりました。

ただ今後への課題も少なくありません。ミドルマーケットに

向けた縫製機器の一部のミシンが計画通りに出荷できなかったことなど、反省点も多々あります。今後はJUKI独自のラインソリューションとプラント営業をキーワードに縫製機器&システム事業のさらなる発展を図っていくことが不可欠です。

——2018年度は産業装置、グループ事業、家庭用ミシンが大きく伸長しました。どのような取り組みがこの結果に結びついたのでしょうか？

産業装置事業は2015年、16年と非常に厳しい状況が続きました。ここに来て回復したのは、自動倉庫や検査機、MIのような省力化装置が揃いラインアップが充実し、お客様のスマート化ニーズにしっかり対応できるようになったことが大きいと思います。また、ラインソリューションの提案営業が本格化したことも産業装置の業績向上に貢献しました。

一方、グループ事業では、当初は部品や材料の受託にとどまっていた事業領域が、製品やユニットの受託へと拡大し、自動車を生産する設備の自動化ラインの一部を受託、いわばエンジニアリング事業を受託するまでになりました。

また家庭用ミシンは、特に国内でのSNSを活用した情報発信や各種イベントを通じて“お客様との繋がり”を創出し、他社にはない特徴のある新しいビジネスモデルが構築されつつあります。これらのことが業績向上に貢献しました。



2007年入社
小浜 次郎

2014年入社
武内 絵美

代表取締役社長
清原 晃

— JUKIでは今後の事業の柱としてカスタマービジネスの拡大に取り組んでいます。現況と課題についてお聞かせください。

消耗品装置、パーツなどの販売やアフターサービスを手掛けるカスタマービジネスをJUKIの柱の一つに育てていくという全社方針がようやく社内に浸透してきました。カスタマービジネスカンパニーが主体となり、パーツ供給を代理店主導からメーカー主導へと転換を進めており、キーパーツに関する情報提供の体制も整いつつあります。ただ依然として、パーツを売り込む「プッシュ型」の営業スタイルから脱却できていません。営業担当者がお客様の事業やミシンの使われ方についてより多くの知識や知見を蓄積していけば、メンテナンスやパーツ交換のご提案ができますし、**工場診断や設備診断といった業務も拡大します。**今後も担当者の意識改革を継続して、パーツ販売だけに留まらないビジネスとして、さらなる成長を追求していく方針です。

— 2018年度に実施した、注目すべき取り組みについてお聞かせください。

二つご紹介したいと思います。一つは社内においてイノベーションを創出する取り組みが拡大していることです。創立80周年を記念して今年4月に500台限定で発表した家庭用ミシン「SL700-EX BLACK」は、JUKIの家庭用ミシン1号機のボディカラーを再現した「黒ミシン」ですが、企画したのは若手社員を中心とした組織横断的なプロジェクトチームです。「JUKIの原点を見つめ直したい」「JUKIを代表する記念モデルを作りたい」という若い社員の情熱がこの製品に結実し、発売後1カ月で完売しました。

もう一つは、経営体制の高度化に向けた取り組みです。**JUKIの本社、国内工場、国内外のグループ会社のすべてにおいて、品質保証、監査、業務管理の体制強化を図りました。**共通の「品質5カ条」を制定するなど、JUKIグループの経営体制が以前に増して強固なものになったことを実感しています。

— ものづくり企業の根幹である生産体制について、今後対処すべき課題があればお聞かせください。

生産については2018年度、電子部品^{ひっぽく}の逼迫により、産業装置事業で生産遅延が発生しました。部品の調達から生産、そして流通までの**全行程を的確にコントロールするサプライチェーンマネジメント(SCM)の見直しが必要**であると認識しています。これは、ものづくりの企業としては大きな課題です。世界中のお客様の様々な要請に機動的な変種変量生産で応えていく体制を早期に確立する必要があると感じています。

もう一つの課題は自社工場のスマート化です。個々の生産設備の更新は着実に実施してきましたが、製造部門全体の生産性を高める包括的なシステムの構築には至っておらず、我々のゴールイメージも描けていませんでした。**お客様にスマートファクトリーを提案している企業として、ロボット化やデジタル化などの潮流を踏まえつつ、生産体制のさらなるスマート化、高度化を図っていききたい**と思います。



2016年入社
外菌 ななみ

2012年入社
三谷 一浩

2011年入社
田中 敦

2019年ビジョン

お客様に選ばれる高品質な
製品・サービスを提供しつづける企業

世界中のお客様へ
「感動と安心」をお届けしよう!!

“ものづくり”から
“ことづくり”企業への転換

追加

— JUKIは現在、2019年から2021年の3年間を対象とする中期経営計画を推進しています。この定量目標と、その目標を掲げた背景・狙いについてお聞かせください。

JUKIは変化する事業環境に的確に対応するため、計画の内容を毎年見直すローリング方式の中期経営計画を策定・実行しています。2022年を最終年度とする中期経営計画「Value up 2022」では、「お客様に選ばれる高品質な製品・サービスを提供しつづける企業」というビジョンのもと、様々な事業戦略、体制戦略を展開しています。売上高については年間9%の増収(3年間の伸長率40%)を継続して1,500億円を達成し、経常利益率は2021年度に9.2%以上を確保したいと考えています。目標達成のためには、付加価値の高い製品を開発・生産するとともに、ソリューション提案型の営業を進めていくことが不可欠だと認識しています。

— 中期経営計画では、「ものづくり企業」から「ことづくり企業」への転換を加速することがビジョンとして謳われました。ことづくりを掲げた背景と狙いをお聞かせください。

JUKIは製造業ですので、21世紀を生き抜くグローバルでイノベティブなものづくり企業になるという基本方針に変わりはありません。しかし、JUKIが将来にわたって持続的な成長を続けていくためには、「モノ」をつくり売るだけでなく、お客様の経営課題の解決に貢献する新たな価値を提供していくことが必要です。たとえば、ミシンの稼働状況を把握できるシステムを導入することによって、縫製工場における自動機の導入から人員配置の変更まで、生産性を高める方法をお客様にご提案できます。強い「モノ」があって、プラスお客様に本当に役立つような価値をそこに付加する、これが私たちの目指す「ことづくり」です。企業の価値をモノの価値からコトの価値にウエイトを移していく意味で「転換」という言葉を使いました。「モノ」だけでなく他社との競争になりますが、「コト」によって他社との差別化が図れると考えています。「ことづくり」は付加価値を創出することですから、経営的にも業績的にも意義ある取り組みだと捉えています。

— 社長は今年の「年頭期首挨拶」で、「アライアンスなどによるオープンイノベーション活用」を急ぐ必要があることを強調されましたが、具体的な取り組みについてお聞かせください。

同業他社との競合が激化する中、新しい製品やサービスをタイミング良くお客様に提供するためには、JUKIが保有する経営資源を有効活用するだけでなく、自前主義を脱却し、パートナー企業など外部のリソースを積極的に活用してイノベーションを実現していくことが欠かせません。自社単独での開発だけではできないことに限りがあります。時機を逃さないイノベーションの重要性を皆さんに伝えるために今回「オープンイノベーション」という言葉を使いました。

パートナー企業の中には非常に優れた技術を有しながら、

市場に対する知見が乏しいために、その技術を十分に活かしていない企業があります。一方、JUKIは長年にわたるお客様との緊密な関係により、市場の動向やお客様のニーズに関する豊富な経験と知見をグループ内に蓄積してきました。パートナー企業とJUKIの力を有機的に連動させることにより、お客様の課題を解決する真のイノベーションが生まれてきます。**お客様の要望を「セイ・イエス」で受け止めて、オープンイノベーションを活用しながら、それぞれのステップをJUKIでマネジメントしつつ、開発に取り組んでいきたいと考えています。**

——中期経営計画では先ほどふれられました「サプライチェーンマネジメント(SCM)の見直し」が体制戦略の一つに位置付けられています。現在のSCMの何が問題なのでしょう？

JUKIの事業は、様々なパートナーやJUKI各部門の協働の上に成り立っています。部品や材料を供給していただくサプライヤーがいて、工場があり、販売会社があって、流通の先にお客様がいらっしゃいます。お客様からの注文に応じて、そのすべてが適切に連携し、タイミング良く回らなければニーズに応えることはできません。

ところが、必ずしもサプライチェーンが正しく機能していない現実があります。営業サイド、生産部門、製造工場、そしてサプライヤーとお互いにルールを決め、**スマートな情報ツールを駆使したシステム化を通じて、SCMの最適化を図ることが必要**です。このような抜本的見直しを行うことで、新たな業務運営の仕組みを作りたいと考えています。この検討のための体制も整備し、既にプロジェクトとして走り始めています。

——2019年度の事業環境をどのように認識されていますか？

現在の事業環境を語る上で、外せないポイントが3つあります。第1は世界経済の不確実性が高まる中で、企業が設備投資に対して慎重になっていることです。米中貿易摩擦の影響や新興国経済の減速懸念、英国のEU離脱問題、世界各地における地政学的リスクの拡大などにより、多くの企業で設備投資を抑える傾向が顕在化してきました。第2は技術革新の動きが加速していることです。お客様のスマート化ニーズの高まりを受けて、IoTやAIなどの先端テクノロジーを活用して、最適な生産体制を構築しようという動きが本格化しています。そして第3が異業種、他業種からの参入です。ミシン自体の参入障壁は高い部分もありますが、「自動化」の分野では異業種との競合が一段と激化しているのが現状です。**世界経済の不確実性、技術革新・イノベーションの進化、他業種・他業態との競合、この3つの点を事業環境として認識した上で、慎重にJUKIグループの舵取りを行っていくことがこれまで以上に重要になってきました。**

——縫製機器&システム事業の成長戦略をお聞かせください。

工業用ミシンに関しては、「ミドル市場の開拓」を最大の取り組みテーマに掲げています。JUKIが世界ナンバーワンの地位を確立できたのは、中堅・中小の縫製工場にJUKI製品を提供し、共に成長してきたからです。今後もアジア、アフリカ等のマーケットにフォーカスし、最善のソリューションをご提案していきたいと考えています。お客様にJUKIのミシンを使っただけ、共に成長してハイエンドにシフトしていく、そこ

2019-2021中期経営計画 行動指針

1

世界中のお客様の生産ラインを止めない

追加

**品質と納期の体制強化！
SCM再構築、品質の5カ条制定**

2

目標達成にこだわる(Never give up)

3

「経営の5S」と「JUKIグループ社員
行動規範“10カ条”」の遵守

4

健康経営と環境経営の実践

を応援していくというのがJUKIの本来の使命だと思います。一方で、既にハイエンドのお客様に対しては、アライアンスや生産管理システムJaNets (JUKI Advanced Network system)を活用しお客様の工場全体を見て、最適なソリューションをトータルで提案することが重要だと考えています。家庭用ミシンについては、主に欧米および日本のヘビーユーザーを対象に、アライアンスによる商品の品揃え拡充も含めて、市場の特性に適合したラインアップとブランド価値向上の取り組みを継続していく考えです。

——産業機器&システム事業の成長に向けた取り組みをご紹介します。

産業装置事業については「非マウンタ領域のソリューション拡大」を基本方針に据えました。実装工程の前後工程の省力化をご提案することが、ライン全体にわたりお客様のお役に立ち、JUKIにとっても事業領域が拡大し、付加価値が高まることだと考えます。また、お客様の工場では我々の想定を越えた使い方をされるケースがあり、それが事業のヒントになることも多々あります。加えて実装統合システムソフトウェア「JaNets」の市場浸透にも注力していく方針です。グループ事業では生産グループ会社と協力会社によるJUKIネットワークを駆使して、新規顧客の開拓と重要顧客の間口拡大に取り組み、エンジニアリング事業を確立したいと考えています。またカスタマービジネスでは、システムサポートやリモートメンテナンスによるパーツの拡販やアフターサービス事業の拡充に力を注いでいきます。



——JUKIが今後も、安定した収益を創出し続けるためには、生産体制・開発体制の高度化が不可欠だと思いますがどのように取り組まれるのでしょうか？

生産に関しては、品質と納期の体制強化に取り組みたいと考えています。また、製造工場のスマートファクトリー化を通じて、製造工程や検査工程をシステム管理するなど工場の見える化を図り、原価低減にも取り組んでいきます。

開発に関しては、部品やユニットを共通化、つまりモジュール化して、開発効率を高める一方、ブラックボックスの部分にあたるJUKIの技術やノウハウが結集したコアの部分で差別化して、JUKIならではの独自性のある製品と価値づくりに邁進していくことが必要です。

——最後に、JUKI社員に期待することをお聞かせください。

JUKIグループの従業員、特に皆さんのような若手社員に期待するのは、仕事改革や働き方改革の先頭に立ってほしいということです。JUKIは過去、多くの成功もありましたが一方厳しい時代も経験してきました、人は一定のところで安心するとそこで進歩が止まります。同様に企業も絶えず事業環境に合わせて、仕事のやり方や事業領域を変え、お客様のニーズに対して柔軟に対応できる、変化への対応力が求められています。特に若手社員はJUKIの企業文化や仕事のスタイルに染まっていないので自らが職場の環境を変え、自分自身を変えていく柔軟性を持つ、そうすれば、不確実性が高まるこれからの時代を生きぬけるでしょう。「グローバル&イノベティブ」と「スマート&コネクテッド」、この2つのキーワードの具現化に向けて働き方改革を推進し、次の100年に向けて、JUKIを事業環境の変化に対応できるような、柔軟な会社に変えてほしいと願っています。共に頑張りましょう。

JUKIの企業価値創造フロー(ビジネスモデル)

JUKIは、中期経営計画「JUKI Value up 2022」のもと、お客様、お取引先、株主・投資家、社会、従業員といったステークホルダーに対し、企業価値創造に取り組んでいます。そして、JUKIの成長サイクルにより、イノベティブで活気のある企業を実現し、JUKIの企業価値創造の力をさらに高めていく取り組みを行っています。

2019-2021 中期経営計画

2019年ビジョン

お客様に選ばれる
高品質な製品・サービスを
提供しつづける企業
～世界中のお客様へ「感動と
安心」をお届けしよう!!～

行動指針

詳細: ▶p.12

事業戦略

- ① ソリューション営業での
価値創造力の強化
- ② 市場開拓による
将来の顧客基盤構築
- ③ 将来を見据えたビジネス
カテゴリーの創出と強化

体制戦略

- ④ ビジョンを実現する
グローバルで
イノベティブ(革新的)な
人材の育成と活用
- ⑤ スマートな事業基盤の構築
(プロセスのSmart &
Connected化)

JUKIの事業

工業用ミシン事業 ▶p.16



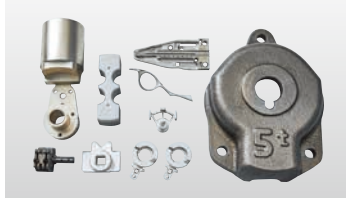
家庭用ミシン事業 ▶p.20



産業装置事業 ▶p.22



グループ事業 ▶p.26



カスタマービジネス ▶p.28



生産

▶p.34

開発

▶p.30



ステークホルダーへの価値提供

環境 ▶p.37

E

- 環境ビジョン
- JUKI ECO PRODUCTS
- 環境目標の運営
- 環境に対する取り組み事例

社会 ▶p.42

S

社会 ▶p.42

- 小中学校へミシンを寄贈
- 様々な地域貢献活動など

社員 ▶p.43

- ダイバーシティの推進
- 健康経営の推進など

グループ会社 ▶p.44

- 品質経営への取り組み

お取引先 ▶p.45

- お取引先(協力会)を対象にした「研修会」と「表彰式」を開催など

株主・投資家 ▶p.45

- 株主総会の開催
- IR決算説明会の開催

お客様 ▶p.46

- 各事業のお客様紹介

ガバナンス ▶p.48

G

- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- 役員紹介

INDUSTRIAL SEWING MACHINES BUSINESS



Products



ダイレクトドライブ高速本縫
自動糸切りソーイングシステム
DDL-9000C



セミドライヘッド・シリンダーヘッド型
片面飾り偏平縫いミシン
MF-7900D



セミドライヘッド電子本縫千鳥縫
ソーイングシステム
LZ-2290C



入力機能付き
電子サイクルマシン
AMS-221F



180カ国のお客様をカバーするネットワークで、縫製産業を支える「世界シェアNo.1」事業

最先端トレンドを提案するメゾンブランドからカジュアルアパレル製品、スポーツ用品、カーシートなど、縫製が伴うあらゆる分野の製品の“縫い”を実現し、世界の縫製産業を幅広く支えるJUKIの工業用マシン。

直線縫い、ジグザグ縫い、ボタン付けなどそれぞれの専用縫いを追及したマシン、縫製アイテムや素材の変更などにアクティブに対応できるデジタルマシン、複数の工程をスイッチ一つで行う自動機マシンなど、幅広いラインアップで縫製ラインをワンプランドで揃えることができます。また、IoTを活用し、これらの機器をネットワークでつなぐことにより、高次元の工場管理ができるシステムを構築しています。

JUKIは「Smart Solutions」のキーワードのもと、革新的かつ高精度な技術でお客様のご要望に応え、それらをラインソリューションとして提案し、お客様の課題を解決します。



Customer Solutions

1. ワンプランドでのライン構築

JUKIの工業用マシンのラインアップは約2,000機種にも上ります。その種類は縫製する素材・用途によって、布帛用、ニット用、ノンアパレル用、複数工程を1台で完了する自動機など多種多様です。縫製品質、脱技能、生産性を追求した幅広いラインアップで、お客様のニーズに沿った最大限のパフォーマンスを実現するラインソリューションをご提供します。



2. マシンのデジタル化と工場の見える化によるスマートファクトリー提案

マシンの調整をメカ式からデジタル化し、マシン間、工場間で共有することができ、段取り時間の大幅な短縮が図れます。また、デジタル化によりマシンの稼働データやメンテナンス情報を取得することができ、これらのデータを分析・加工することで工場の見える化が図れます。縫製工程のロボット化など、JUKIのソリューションはスマート工場の実現をサポートします。



3. 安定した品質、サポートで安心を提供

JUKIには60年以上の活動実績に裏打ちされた豊富な経験のもと、お客様工場が抱える諸問題についての的確にサポートするプロ集団を世界各地に配置。安定した品質や生産性が求められる縫製工場において、トラブル時の対応のみならず、技術指導やセミナー、生産性向上のコンサルティングなど、最強のカスタマーサポートでお客様を支えます。

TOPICS

Texprocess2019(ドイツ・フランクフルト)に出展

2019年5月に、ドイツ・フランクフルト国際見本市会場(Frankfurt am Main)にて開催されたTexprocess2019に出展しました。世界各国から約47,000人の来場者が集まる中、出展コンセプト「JUKI Smart Solutions~Innovation with our Best Global Support~(JUKIはあなたの工場のスマート化をグローバルにサポートします)」のもと、生産性・品質を向上させる自動機や、人の作業を補完する高度な自動化・デジタル化技術を盛り込んだ最新鋭の工業用マシンほか、縫製以外の周辺機器も含めた先進的なトータルラインソリューションを提案しました。



JUKIが提案するSmart Factory

What is Smart Factory?

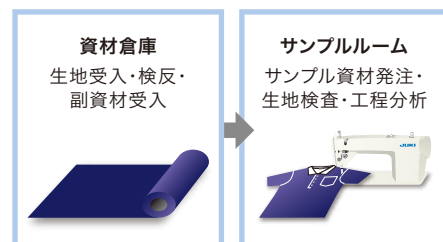
見える化 Connected

JUKI's Commitment to 3 Solutions:

1. Automatization (自動化)
2. Digitalization (デジタル化)
3. Networking (ネットワーク化)

JUKIは、「見える化」と「Connected」がこれからのスマートファクトリーに欠かせないキーワードだと考えています。そうした考えのもと、お客様工場のスマートファクトリー化を支援するため、JUKIは自動化・デジタル化・ネットワーク化の技術を進化させてまいりました。JUKIはお客様工場の工程改善や生産性の向上など、60年にわたるプラントエンジニアリング活動の実績があります。この強みを活かし、最新の自動化・デジタル化・システム化の最適な導入方法とその効果をご提案します。

縫製工程の流れ



1. Automatization (自動化)

自動機

人の手によるハンドリング縫製、ハサミでのカット作業、生地折り曲げ、いせ込みなど、複数工程をフルオート化したミシンを数多く品揃えしています。



自動機・ ピッキングロボット

裁断工程からAGVで搬送された生地を縫製パーツに自動で仕上げます。ピッキングはロボットで行います。



AGV

工場内での縫製パーツの搬送はAGVで自動化します。搬送時間のムダを無くし生産計画に沿った搬送を行います。



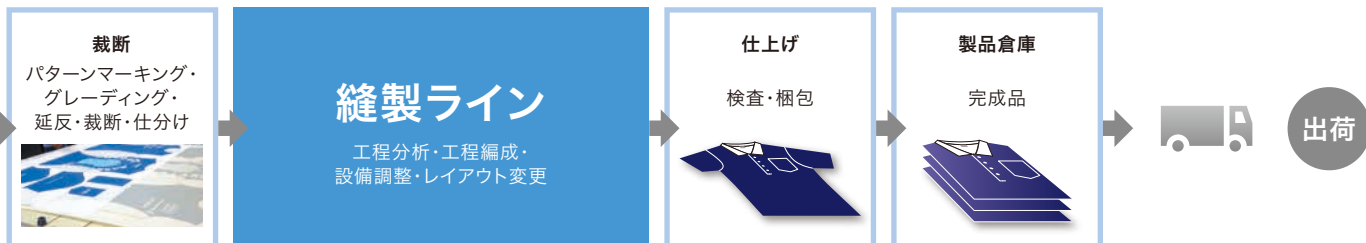
2. Digitalization (デジタル化)

縫製工程のデジタル化

デジタル化された仕様書を見ながら縫製します。ミシンの稼働状況を集約でき、生産進捗やオペレータ毎のバラツキをタイムリーに確認できます。

デジタルミシン

“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶することができるミシン。調整後のデータは専用アプリを入れたタブレットに記憶させることができ、別のミシンへのデータ転送も可能です。これにより従来、勘や経験に頼っていた縫い調整が短時間ででき、縫いデータの共有化・管理が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



JUKIの事業

3. Networking (ネットワーク化)

工場のコントロール室の見える化

生産計画に対する現状の出来高、生産性を左右するラインバランスや、ボトルネック工程が一目で確認できます。さらに工場と工場をつなぎ全社のサプライチェーンの円滑化を進めることができます。また、これらのデータを分析・加工することで工場全体の課題を見える化できます。

縫製管理システムソフト **JaNets** Juki Advanced Network system

マシンをネットワークに繋ぐことで、各マシンの稼働情報などの設備データがリアルタイムで見える化され、そのデータを分析することで改善活動に繋げることができます。さらにデジタルマシンを使うと、システムとマシン間で双方向通信ができるようになり、段取り換えの際に縫いの制御情報をマシンにダウンロードすることもできます。今後は予兆管理やトレーサビリティなど“情報”を活用したサポートコンテンツを増やしていく計画です。



HOUSEHOLD SEWING MACHINES BUSINESS



創造性をサポートするミシンで 趣味力の高いお客様 (Home Sewer) と新たな楽しみの創造

ソーイングを趣味にされている方から、オーダーメイドのテーラーさんまで、個人使用から職業的な用途まで、幅広く活用されているのがJUKIの家庭用ミシンです。JUKI工業用ミシンで培った技術を取り込み、高品質・高機能なハイクラスな商品をご提供しています。

製品のご提供と併せて、機能の活用や作品作りの楽しさを共有していただく「ワークショップ活動」を積極的に実施しています。ソーイングの趣味を細かく分類して、手芸作家の先生とコラボレーションすることで、ミシンソーイングに関する深い知識を提供することができます。またSNSを活用して、お客様とコミュニケーションを図る中で、さらなるJUKIファン作りを進めています。



Products



ロングアーム高性能
コンピューターミシン
《Kirei》HZL-NX7



2本針4本糸差動送り付き
オーバーロックミシン
MO-114D



職業用直線ミシン
SL-700EX



家庭用キルト専用
ロングアームミシン
TL-2200QVP

Customer Solutions

1. 確かな製品・技術

ミシンの本質である“縫い目”にこだわり、ワンランク上の“縫い”をご提供します。厚物や段部乗り越え縫いはもちろん、細かい針基線変更や縫製途中でも縫い目の長さや振り幅の調整も簡単かつスムーズに行えます。縫い目をデザインした「キルト」作品も美しく仕上がります。



2. ミシンの機能とソーイング知識を ワークショップでご提供

ミシンソーイングの趣味を「洋裁」、「小物・バッグ」、「ドール衣装」、「キルト」など、細かく分類して、それぞれを得意とする作家先生とそれに適したミシンとをコラボレーションし、ミシンの機能やソーイングの知識を深めていただくワークショップを定期的で開催しています。



3. 世界を網羅する販売・技術サポート

世界に張り巡らせた工業用ミシンの販売・技術ネットワークを活用してお客様をサポートしています。製品の使い方やメンテナンス方法に加え、ミシンの機構や美しい縫い目の作り方など、様々な講習会を開催し「安心」を提供しています。



TOPICS

第18回「東京国際キルトフェスティバル2019」へ出展

毎回21万人以上の来場者で賑わう日本最大のキルト展「東京国際キルトフェスティバル」に出展し、「キルトのJUKI」をアピールしました。

展示会では、キルトのショルダーポーチやスナップレザポーチのワークショップを中心に、日本ではJUKIのみが品揃えをしているキルト専用ロングアームミシンを使ったデモンストレーションを人気キルト作家の中沢フェリーサ先生に実施していただきました。

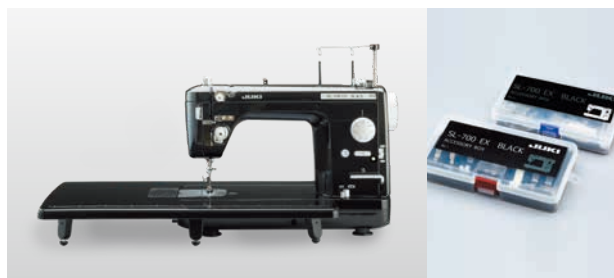


JUKIブース(2019年1月)

80周年記念モデル職業用ミシンの発売

創立80周年を記念してJUKI家庭用ミシン1号機のボディカラー「黒色」を高級塗装であるピアノブラックで再現した、職業用直進縫いミシンを500台限定で販売しました。

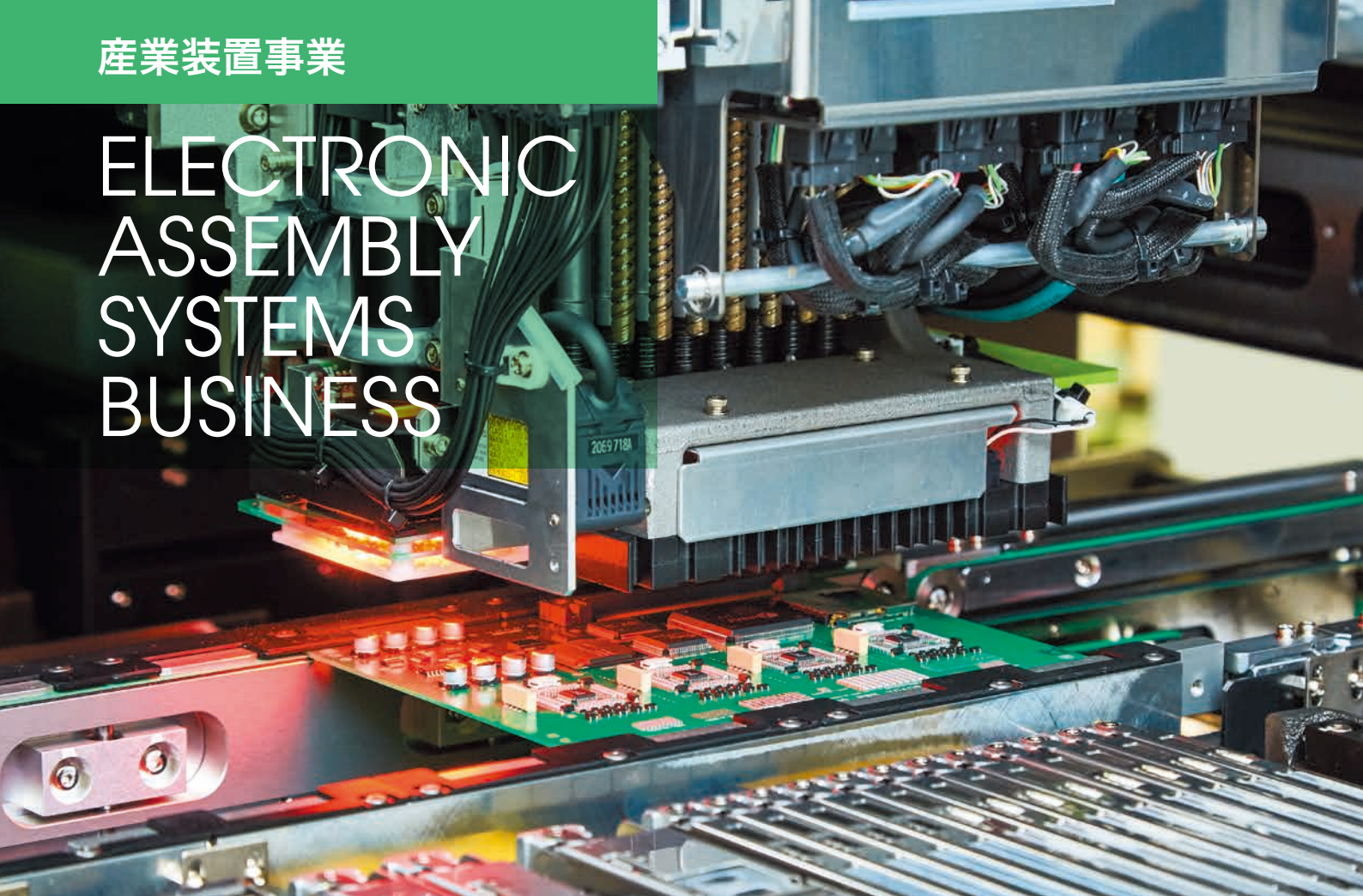
限定品として1から500のシリアル番号を付記したラベルを同梱し、通常は別売りの合計3万円分のミシンアクセサリー(14種類)を付属しました。保証期間を3年に延長するサービスも付け、発売から1カ月で完売となりました。



80周年記念モデル「SL-700EX BLACK」

付属のアクセサリー

ELECTRONIC ASSEMBLY SYSTEMS BUSINESS



Products



高速スマートモジュラー
マウンタ
RS-1R



高速コンパクトモジュラー
マウンタ
RX-7R



3D基板外観検査機
(AOI)
RV-2-3DH



マルチタスク
プラットフォーム
JM-100



インテリジェント
ストレージ管理システム
ISM3600



産業装置の製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点

● JUKIオートメーションシステムズGmbH.

● 東京重機国際貿易(上海)有

● JUKIインディア(株)
SMT本部

● JUKISMT アジア(株)

● JUKI産機テクノロジー(株)

● JUKIオートメーションシステムズ(株)

● JUKIオートメーションシステムズINC.

基板生産工場を トータルソリューションでサポート

私たちの日々の暮らしに欠かせないあらゆる“製品”の中に組み込まれ、その製品の頭脳の役割を担うのが「電子回路基板」です。スマートフォンや家電製品、車や電車などの乗り物、オフィス、病院、工場内の装置まで、様々な製品に使われています。

JUKIは、基板生産装置の総合メーカーとして、お客様ニーズを捉えた基板生産装置のラインアップや、装置と連動して電子部品を収納・供給する自動倉庫や無人搬送装置、ロボット挿入システムなど、最新技術を駆使した装置をご提供しています。

JUKIが目指すのは、お客様の製造ライン全体、またフロア全体での生産性を向上させるための“トータルソリューション”のお手伝いです。装置をネットワークで結び、生産の進捗や設備の稼働状況などをリアルタイムで表示させる「生産の見える化」システムにより、より高い次元の工場へと進化させることができます。JUKIはIoT、M2M、AIなどの最新技術を活用して、お客様工場のスマート化をお手伝いします。



TOPICS

第21回「実装プロセステクノロジー展」に出展

実装設備メーカーが一堂に会する実装技術の専門展に出展しました。ロボットや画像認識を駆使した自動化技術と、最新のIoT・M2M技術を融合させた装置やシステムで、SMT工程から前後工程、工場管理、検査工程まで、お客様の工場をスマートファクトリーの未来へ導く各種最新ソリューションを提案しました。また、生産の進捗や設備の稼働状況などをリアルタイムで表示させる「生産の見える化」システムについても紹介しました。

Customer Solutions

1. 柔軟なライン構築ができるフルラインアップ製品

基板を生産するための装置をフルラインアップしています。生産スピードと高汎用性を兼備したマウンタや、不良基板の流出を防ぐ高速3D検査機、はんだの塗布を高速・高品質で行う印刷機など、多品種少量生産、変種変量生産など、柔軟なライン構築ができます。



2. 工場全体の生産の管理・向上をサポート

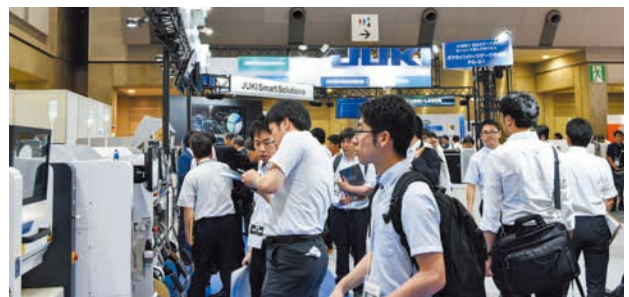
基板生産のための部品受け入れから完成品出庫まで、装置やシステムを活用して、工場全体の改善や生産性向上のサポートや省人化など、トータルソリューションのお手伝いができます。手作業の自動化、部品管理の自動化、生産計画の達成に貢献するシステムソフトなどで工場全体をサポートします。



電子部品を保管管理する自動倉庫

3. リモートコントロールサポート

リモートでライン全体のモニタリングを行い、生産ラインの障害をいち早く発見して復旧につなげます。さらに、蓄積した情報を解析することにより、安定稼働状態の維持に加え、ライン全体の生産性の向上や品質の向上につなげることができます。リモートコントロールによるサポートで、より高い次元でのスマート化に貢献します。



2019年6月5日～7日東京国際展示場(東京ビッグサイト)にて

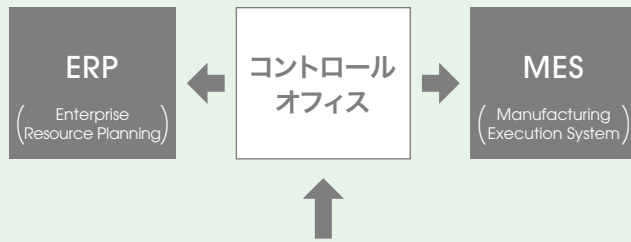
産業装置事業

基板製造工場の設備とシステムとの融合により 工場全体がつながるJUKIのトータルソリューション

JUKIのSmart Factory提案

実装統合システムソフト **JaNets** Juki Advanced Network system

マウンタや自動倉庫、他装置をつなげた実装ラインの生産管理はもとより、お客様の基幹システムとの連携により、フロア全体での生産性の向上を実現します。



部品誤装着防止

ライン管理
トレーサビリティ

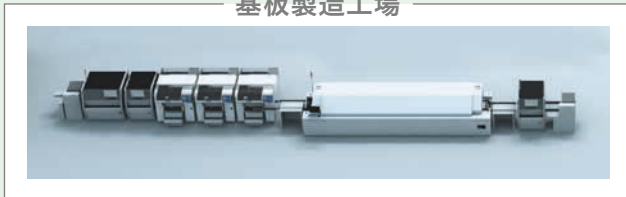
JaNets

Juki Advanced Network system

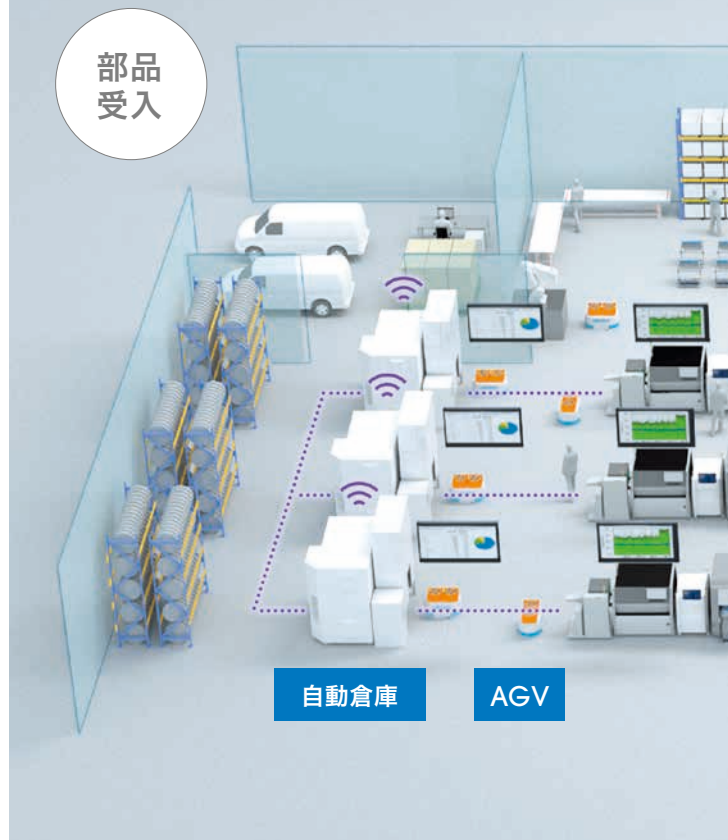
設備間連携
外部出力機能

設備稼働状態 (ライン) 	設備稼働状態 (マシン) 	設備稼働状態 (ISM)
不具合解析 	生産進捗 	設備稼働分析
在庫管理 	設備保全 	リモートサポート

↓ ↑
基板製造工場



基板製造工場



実装システムソリューション

JUKI独自の機構を搭載した印刷機、検査機、チップマウンタ、汎用マウンタをフルラインアップしています(リフロー除く)。搭載する電子部品の高さに応じてヘッドの部品認識センサーの高さを可変させ、ヘッド交換を不要にしたマウンタなど、幅広いラインアップで、変種変量生産をはじめ、実装ラインの生産性向上に貢献します。



JaNetsを活用したIoTイノベーション

Juki Advanced Network system



JUKIの事業

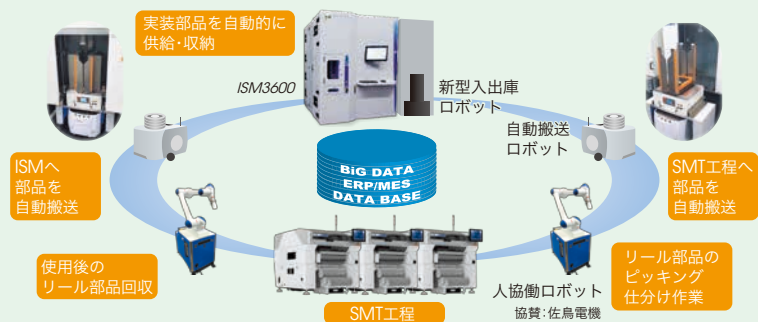
後工程自動化システムソリューション

従来人手で行っていた部品挿入工程を自動化する装置です。リード部品のリード先端を正確にセンタリングし、確実な挿入を実現します。

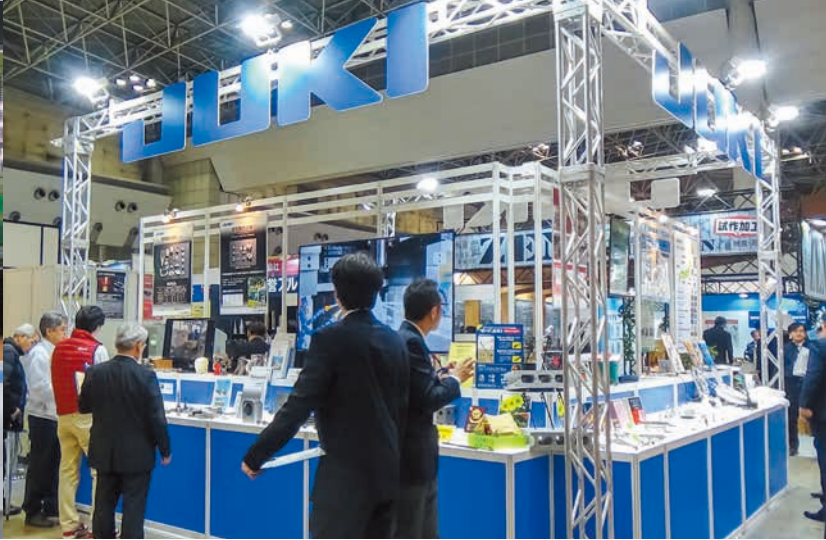


ストレージシステムソリューション(部品供給管理効率化)

実装ラインと連動させ、人手で行われている実装部品の供給管理業務を自動化する仕組みです。部品を自動的に供給・収納する自動倉庫や、自動倉庫から部品を搬送するAGV、リール部品をピッキングする人協働ロボットなどを活用することにより、作業効率、生産性を飛躍的に向上できます。



GROUP BUSINESS



受託開発・製造事業

「技能者」+「開発・製造装置」+「開発・生産ノウハウ」+「材料」の4つの総合力で製造業のお客様をサポート

製造会社のものでづくり力を結集させた事業です。主要製品である工業用・家庭用ミシン、マウンタの設計・開発から部品製造、製品組み立てを行う中で育まれた開発力や精密加工、プレス・板金加工、鋳鉄铸件、精密鑄造、金型製造など、幅広く高度なものでづくり力を有しています。

JUKIのグループ事業はそれらのものでづくり技術を深化・組み合わせし、お客様が望まれる部品やユニット製品として具現化する事業です。



スリープバスター

ドライバーの安全な走行をサポート



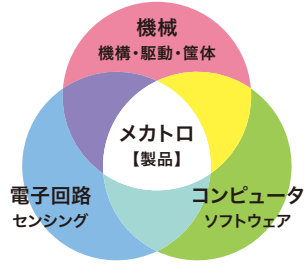
スリープバスターは、過労運転防止や交通事故の低減に貢献する装置です。

運転座席にセンサーパッドを装着し、パッドに内蔵されたセンサーが、運転者の上体に発生する生体信号を常時とらえ解析。運転者の疲労度合いを判定し、集中力の低下や体調の急変(入眠予兆信号等)を画面と音で警告します。さらに、このデータを「ヒュータコ」という専用ソフトを用いてパソコンに取り込むことで、運行時間内の運転手の緊張・集中・覚醒水準の低下や疲労度合いを分析できます。

Customer Solutions

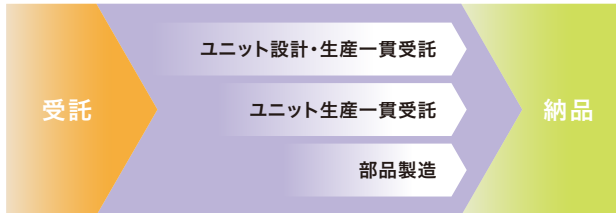
1. 機器制御の開発・設計が可能

マウンタの開発・設計で培った技術を基に、機器制御の開発・設計が可能です。機械工学・電子工学・ソフトウェアの分野から多彩な人材が集まり、柔軟な発想力で製品を生み出します。



2. JUKIとJUKIグループのものづくり力（開発・製造力）が結集

全拠点がISO9001を取得。50年以上のものづくりの歴史とともに、科学的な分析手法を取り入れ、徹底的な高効率化とムダの排除を実践。付加価値の高い生産、良質なものづくり、高品質な製品をお届けします。



3. 「人・設備・方法・材料」をフル活用して、付加価値の高い製品を提供（材料→加工→組付け→完成品）

各種国家資格を保有している技能者がMC・鋳造・研磨・塗装など多種多様な技術を駆使して、お客様のニーズに適したマルチセレクト製造で製品を完成させます。資材調達・製造・組立まで、すべての工程をワンストップで提供します。

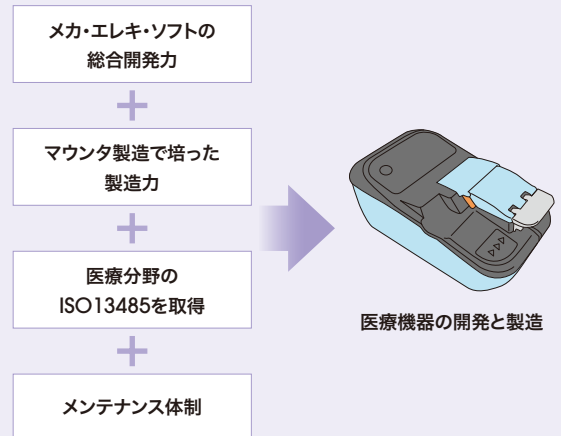


各拠点の開発・製造技術を融合した受託製品

- 自社工場のスマート化技術を応用してロボット化を受託(大田原工場)

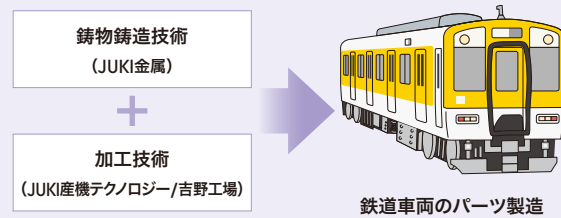


- 永年育んだ開発力～製造力を生かして、製品開発・製造を受託(JUKI産機テクノロジー)



JUKIの事業

- 2社の技術力を融合してパーツ製造を受託



データエントリーシステム

情報処理に特化したJUKI独自のシステム



データエントリーシステムは、数値や文字などの大量のデータをスピーディに入力できるように工夫された装置です。

生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界の「機密情報や個人情報の保護」、「OCR処理と連携したイメージエントリーの効率向上」、「高速通信インフラを利用したデリバリーレス」など、情報処理産業のニーズに対応するため、処理機能強化や人的ミスを軽減する装置の開発を進めています。

CUSTOMER BUSINESS



世界中のお客様にマシンの最適な稼働状態を提供し 一歩先の安心をお届け

JUKIの主力事業である工業用マシンと産業装置のお客様に、ご購入いただいた製品を最適な環境でご使用いただけるように、タイムリーな保守点検のご案内やパーツ供給、マシンのリモートコントロールを通じて、お客様のサポートを行う事業です。

工業用マシンにおいては、消耗部品の交換時期や点検時期のお知らせなど、お客様で予防保全の情報が簡易に取得できるツールを用意しました。

産業装置においては、休みなく動くマシンをリモートでモニタリングします。

しっかりとしたパーツ供給とメンテナンスに加え、一歩先の安心をお届けします。



Customer Solutions

1. 縫製機器の点検サポートシステム

突然のマシントップによるミシンの稼働率低下に備えて、JUKIではスマートフォンなどの通信機器専用アプリに、マシン1台1台の必要な情報を入力するだけで、そのマシンに関する消耗部品や点検方法の情報をお客様に提供するシステムを新たにリリースしました。登録した各ミシンの消耗部品の交換時期や保守点検の要否がアプリ上に表示され、それらのデータを集約することで、計画的な予防保全に役立てることができます。JUKIでは、ご購入いただいたマシンを長く安定してお使いいただくため、お客様のサポートツールを拡充させています。



2. リモートによるカスタマーサポートを実現

生産ラインや設備の稼働状況を把握し、解析・改善のためのデータ収集ツール

マシンの稼働時間が長い産業装置では、お客様に代わりリモートでライン全体のモニタリングを行うことができます。生産ラインの障害発生をいち早く発見して復旧につなげるとともに、モニタリングし蓄積した情報を解析することにより、安定稼働状態の維持に加え、ライン全体の生産性の向上や品質の向上を図ることができます。

JUKIはリモートコントロールによるサポートで、より高い次元でのスマート化を実現します。



TOPICS

新しい在庫発注管理システムにより、 パーツの即納率が向上

パーツの提供に関して、お客様をお待たせしないためには、在庫効率を最適化する必要があります。

JUKIではパーツの即納率向上のために、新しい在庫発注管理システムを導入し、在庫効率を最適化した結果、即納率が90%まで向上しました。オンラインで提供している会員制の技術情報サイト「技術サポートwebサイト」や、工業用ミシンのパーツサイト「Club-J」の運用と併せ、さらなる即納率の向上に取り組みます。



(上) 技術者向け情報サイト
(下) 工業用ミシンのパーツサイト



「お客様第一主義」を実践する 高度な技術開発力



お客様が求められる生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上、省スペース化などの課題にお応えするため、製品単体の開発のみならず、自動機・自動化システムに取り組んでいるのがJUKIの技術開発です。リーディングカンパニーとして、多くの「世界初」の機構を生み出してきています。

最新の技術の追求と合わせて開発のベースになるのは、製品の使いやすさや、省電力などの環境配慮です。1日中稼働するからこそ、ストレスなく使っていただける製品を作りたい、JUKIのミシンは工場の管理者のみならず、現場の使用者からも圧倒的な支持を得ています。

また、海外のお客様のニーズにスピーディに対応するため、中国、ベトナム、アメリカ、ポーランドにも開発拠点を設置し、ハイレベルな要求にきめ細かく対応しています。

TECHNOLOGY & DEVELOPMENT

国内開発拠点



海外開発拠点



JUKIの技術開発

JUKI製品の多くは生産財のため、世界中のどんな環境下でも安定して稼動することが求められています。

JUKIでは、強度や安全性、耐久性などに問題が発生しないように、3次元CADや最新の試験設備を使い、力、熱、振動、電磁放射など、いろいろな物理現象を仮想的に発生させて評価する実験を繰り返しています。



電子顕微鏡での材料研究



EPMAでの元素分析



ビッカース硬度計での硬さ試験



静電試験器を使ったテスト



加振機を活用しての振動試験



製品梱包落下試験



チップマウンタの耐久試験



工業用ミシン縫いテスト



半無響室での騒音評価

TOPICS

YKK(株)とファスナー縫製を共同開発

ファスナーの世界トップメーカーYKK(株) (以下、YKK) との共同開発の第2弾として、テープのない新しいタイプのファスナー「AiryString™」と、それを縫製するためのミシンを共同開発しました。従来タイプのファスナーの縫製は、テープ部分を衣服パーツに縫い付けますが、AiryString™ファスナーは、テープ部分がないため、衣服パーツにエレメントを直接縫いつけます。次世代ファスナーとその縫製用のミシンという、共同開発だからこそ実現した技術です。



左上: 通常のビスロンファスナー
右下: 「AiryString™」



「AiryString™」を縫製する専用ミシン
(2019年7月リリース)

(株)日立製作所とプリント基板生産ラインの最適化で協業

産業装置のお客様である(株)日立製作所(以下、日立)と、2018年10月、基板の生産を最適化するソリューションを共同で開発しました。JUKIの実装ライン装置と日立の設備データを活用した高効率生産モデルなどを融合し、変種変量生産を最適化していくシステムです。この仕組みを子会社のJUKI産機テクノロジーの基板生産ラインに導入し、試験を行ったところ、稼働状況の「見える化」などにより生産性が30%向上する実績が得られました。



JUKI産機テクノロジーの最適化ソリューションライン

技術開発力

JUKIのコアテクノロジー

JUKIのコア技術は、品質を安定させる、使いやすさを追求する、作業性を向上させる、消費電力を削減するなど、製品に直結した技術の数々です。多様化・高度化する市場ニーズを的確にとらえ、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる機能を生み出しています。

工業用ミシンのコア技術

デジタル制御

縫い目調整のデジタル化とIoTを活用したデータ転送

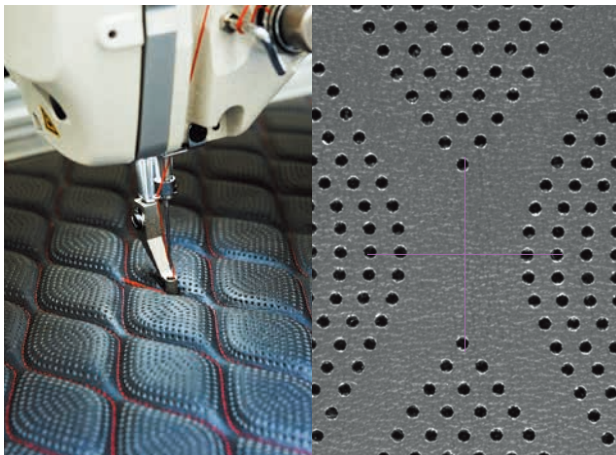
従来、勘や経験に頼っていた送り歯高さ、送りピッチと軌跡、押え圧、上糸のテンションの5つの“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶できるようにした技術です。調整後のデータは専用アプリを入れた通信機器に記憶させることができ、近距離無線通信NFC機能により、パネルにかざすだけで別のマシンへのデータ転送を可能にしました。縫製ラインのミシンの設定が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



DDL-9000Cのデジタル制御

画像認識技術(マシン)

生地の寄り量とプログラムデータとのずれを画像処理にて補正
パーフォレーション生地など、柔らかく伸び縮みする生地に対して、縫うことにより生じる生地の寄り量を生地上の目印となる部分からカメラで測定し、基本となるプログラムデータとのずれ量を算出・補正した後、次の縫い目を確実に目標とする場所に形成することで、質の高い安定した縫い目を実現できます。

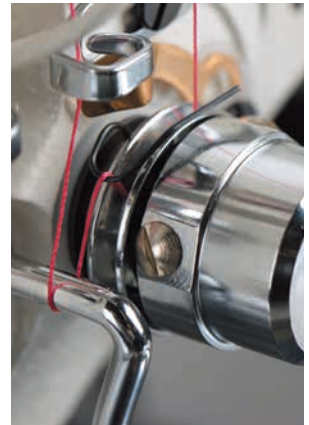


AMS-251の画像認識技術

アクティブテンション

安定した「縫い」を実現するため糸の張力を動的に制御

上糸と下糸の張力を絶えず最適化し、美しく安定した縫いを実現する技術です。特殊なソレノイドを電流で微細にコントロールすることで糸調子皿を開閉させ、最良の糸調子を生み出します。厚地・薄地・伸縮などの素材変化による制御、縫いトラブルの防止、模様縫いの制御など、多方面で活用しています。



AMSにおけるソレノイド制御

ほつれ防止技術

縫い終わりのほつれを阻止するため糸結びを作る

縫い終わりに結び目を作る技術です。機構の違いは多少ありますが、JUKIの多くの製品に搭載されています。偏平縫いマシンにおいては、針糸を専用のフックで斜めに引いてループを作り、そこに針を落とすことにより擬似的な結び目を作ります。専用フックの待機位置、針停止位置などの最適化を図り、タイミングを制御しています。

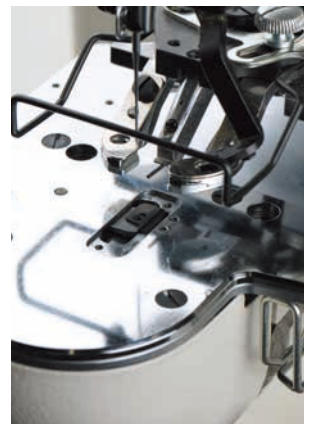


MF-7900における結び目を作る機構

鳥の巣防止・残短技術

糸摘み作業をなくし、生地裏の縫い品質を向上

縫い始めに糸が鳥の巣状態になるのを防止し、縫い終わりの糸を極限まで短く切断する技術です。縫い始めに上糸を糸摘み装置で捕捉し、これを縫い終わりまでキープします。縫製完了後、通常の糸切り動作の後、残短用のメス機構で縫い終わりの上下糸、縫い始めの上糸を短く切断し、残糸は吸引します。



LK-1903BBIにおける残短機構

その他のコア技術

送りの上下駆動

ドライ技術

省エネルギー技術

パーフェクトステッチ

家庭用ミシンのコア技術

内蔵上送り機構

薄地・厚地の“送り”を 確実にする技術

内蔵型先引き上送り機構とデジタル制御上送り機構により、縫いずれ、縫い詰まりを防止する技術です。上送りを布種、布枚数、縫い模様に合わせて0.1mm単位でのデジタル調節を可能にし、幅広い縫い条件に対応します。



HZL-NX7

自動糸調子

模様の種類に応じた 上糸の張力を実現

上糸の張力を、縫い模様に応じて自動調整する技術です。内蔵縫い模様351種類および各種文字縫いに対し、ステッピングモーターがその模様にあった圧力を与えることにより、最適な糸張力を実現します。



HZL-NX7

その他のコア技術

ボックス送り

完全自動糸掛け(イージースレッダー)

自動押え上げ

スライド針板

フロートモード

ピボット機能

産業装置のコア技術

匠ヘッド(マウンタ)

高速性と汎用性を両立

搭載する部品の高さに応じてヘッドを固定したままレーザー認識装置のみを上下動させる技術です。部品認識・搭載を最適な高さで行うことができ、高速搭載を実現しました。これにより部品の高さに応じたヘッド仕様が1種類となり、高速性と汎用性の両立を実現しました。



RS-1R, JM-100の匠ヘッド

検査機の高速画像処理システム

DLP方式投影装置で 鮮明に撮像

プリント基板上に部品が正確に搭載され、ハンダ接合しているかを3Dで検査する技術です。投影・撮像を行う3DヘッドユニットにDLPプロジェクターを4方向に配置し、32パターンの縞模様の光を部品に投影することにより検査精度が向上しました。投影速度の高速化、撮像データの取り込み、演算処理の高速化により、高速で鮮明な検査を実現します。



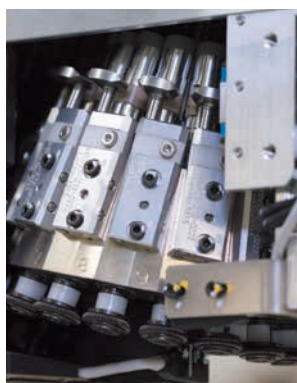
RV-2-3Dの画像認識

JUKIの価値創造

プラネットヘッド(マウンタ)

独自技術の回転型ヘッドで、 小型部品の高速搭載を実現

プラネットヘッドは回転型ヘッドのことで、ヘッドが回転しながら部品を吸着・搭載できるJUKI独自の技術です。部品の吸着、搭載、位置決めを同時に行うことができ、小型部品を高速で搭載することができます。ヘッド全体が回転するとともに、16個のノズルを自転させることができる独自の機構です。

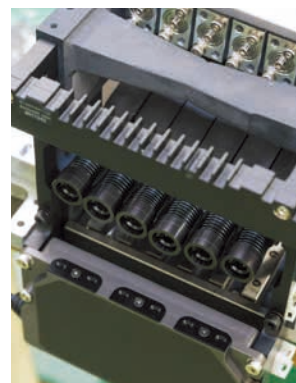


RX-7Rに搭載されたプラネットヘッド

レーザー認識技術(マウンタ)

独自技術により、 様々な形状の部品認識が可能

高い分解能をもつ認識ユニットをヘッドに装備し、部品に光を当て影を読み取ることで、部品の位置と角度を認識できます。これにより幅広い部品に対して安定した高精度搭載が可能で、搭載直前までの部品の吸着状態が検出できるため、部品の有無や吸着姿勢が検出しにくい極小部品などの搭載不良を防止できます。



RS-1Rのレーザー認識技術

その他のコア技術

画像認識技術

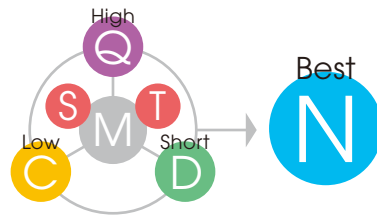
部品ベリフィケーション(CVS)



「100%良品生産」を堅守する made by JUKI のものづくり



「JUKI品質」を堅守し、ものづくりのさらなる進化に取り組んでいるのがJUKIの製造工場です。そのベースになっているのが、〈Q〉品質、〈C〉コスト、〈D〉納期、〈S〉安全、〈T〉人材育成、〈N〉新製品の「生産の六要素」です。六要素をもとに、人〈M〉を中心に管理のサイクルを回し、継続した改善活動でレベルアップを図っています。



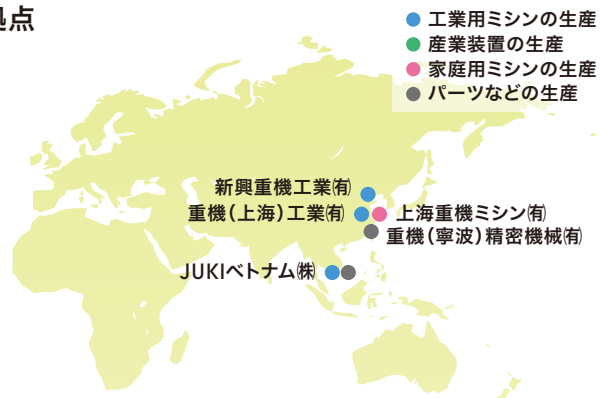
工業用ミシンの生産は、「お客様に近いところで造る」を基本に、日本・中国・ベトナムの合わせて5工場で製造しています。マザー工場である「大田原工場」で生み出された製造方法や製造工法、ノウハウなどが、グループ工場で共有化され、“made by JUKI”の製品を生み出しています。

産業装置の生産は、JUKI産機テクノロジー(株)が担っています。フレキシブルな工法開発と改良に取り組みながら、確固たる品質の製品を世界に送り出しています。

国内生産拠点



海外生産拠点



JUKIの生産力

1. デジタル生産

大田原工場(工業用ミシンの生産)とJUKI産機テクノロジー(産業装置の生産)では、組付けの手順がセルごとにタブレット画面で指示されるデジタル生産を導入。短期間での作業習熟や誤組み付け防止とライン編成ロスの削減を可能にし、安定した生産体制を確立しています。



2. 技能士育成と品質教育

ものづくりの原点は「人」づくりです。技能資格取得の推進や品質管理教育、社内検定などを駆使して、品質・コスト・納期の維持・向上に継続して取り組んでいます。また、海外工場の将来を担う人材への教育を定期的を実施。マネジメント教育を学んだ人材がJUKI品質を根底から支えています。



3. 魅せる工場への取り組み

「5S+安全+QCD」をベースに、ロボット化・デジタル化を通じて、スマート工場への取り組みを進めています。デジタル生産に加えて、フレーム加工、切粉のブロー除去、塗装のそれぞれの工程でのロボット化に加え、工程間の自動搬送システムなど、ITを活用した生産性の高い工場へと変革を進めています。



TOPICS

工業用ミシンの生産に人とロボットの協働組立を導入

大田原工場は、AGVを活用したタクト生産を行っているLKの組立ラインに、“注意・警告を促すシール”を貼るためのロボットを導入し、人作業とロボット作業の協働組立を実現しました。工業用ミシンの組立では人作業(官能作業・調整作業)と機械的な単純作業に分けられます。単純作業をロボットが担うことにより、省スペースでフレキシブルな生産ラインを実現できます。



注意・警告を促すコーションラベル付けロボット(大田原工場)

マウンタ生産におけるラインバランスの見える化

JUKI産機テクノロジーの3工場にて工程を分散して行っているマウンタ生産の同期化を進めています。本社工場では総括組付けラインにAGVを活用したタクトコントロール生産を導入し、その生産進捗に同期して、前工程で組立てたユニットや大仙工場や吉野工場で作られた部品が供給される仕組みです。生産の進捗と実績も見える化し、ラインバランスの維持管理と工程改善につなげています。

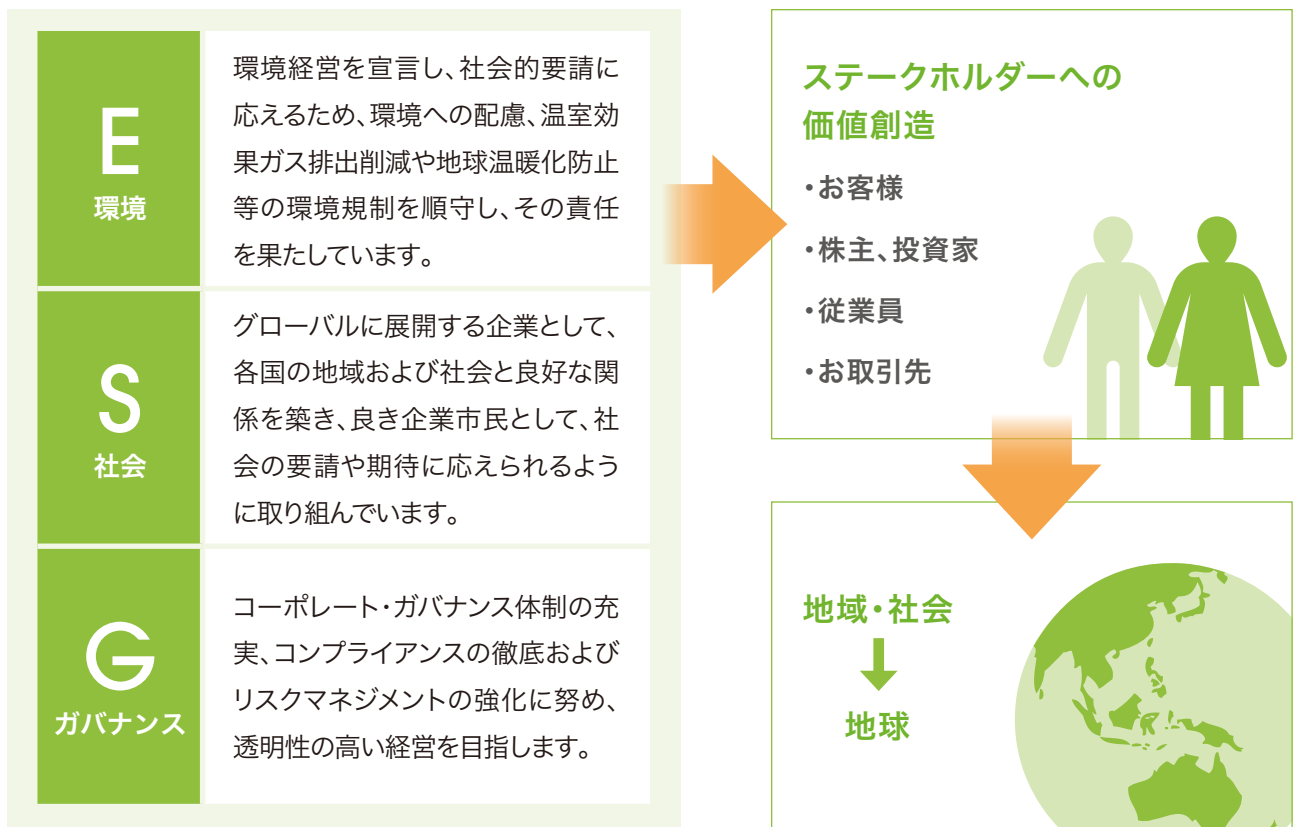


AGVを活用したタクトコントロール生産(JUKI産機テクノロジー)



ESGの取り組み ～持続可能な社会に向けて～

JUKIは、SDGs(持続可能な開発目標)を課題として意識して行く中で、環境への配慮・地域社会への貢献・統治といったESG(Environment・Social・Governance)に関する課題に適切に配慮・対応する取り組みを進めています。グローバルに事業を展開する企業として、各国の地域および社会と良好な関係を築き、安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。



「E」環境への取り組み

環境ビジョン

JUKIは環境経営を宣言し、社会的要請に応えるため、環境への配慮、温室効果ガス排出削減や地球温暖化防止等の環境規制を順守し、その責任を果たしています。さらに安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

JUKI全グループ会社で、環境保全活動を推進しています。



ECO MIND宣言

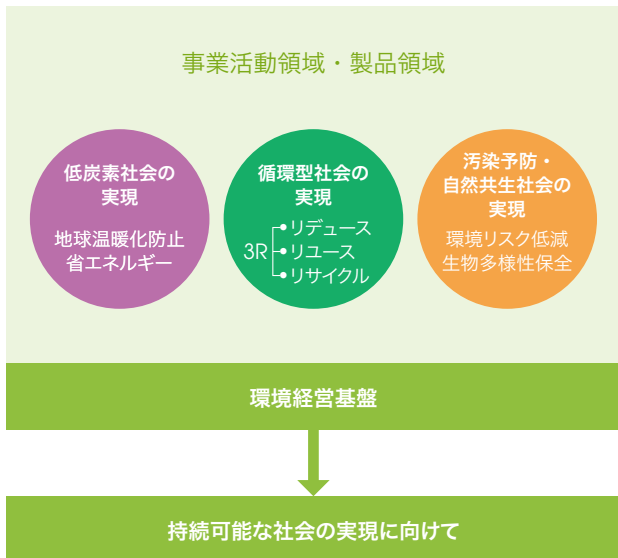
環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。

環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。また3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとりは「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。



ECO MIND



「E」環境への取り組み

JUKI ECO PRODUCTS (JUKIグループグリーン調達)の取り組み

ECO PRODUCTS(2018年)



JUKI ECO PRODUCTS

JUKIでは製品ライフサイクル全般において、環境に配慮した製品作りを行っています。操作性・メンテナンス性の向上、高い性能の追及、省電力・省エネの同時追求など、開発段階で環境に関する38項目の評価を行います。その結果、特に高いレベルで環境配慮を実現した製品を「JUKI ECO PRODUCTS」として認定しています。

工業用マシン



MS-1261A/DWS

高速腕型3本針二重環縫ソーイングシステム



騒音・振動の低減



AMS-221F

入力機能付き電子サイクルマシン



消費電力量12.2%削減
※基本性能あたり



PLC-2700V-7シリーズ

セミドライヘッド ポストベッド本縫総合送り
水平大釜糸切りソーイングシステム



消費電力量24.7%削減
※基本性能あたり

家庭用マシン



HZL-NX7

家庭用コンピューターマシン



部品点数約7%削減

産業装置



JM-100

マルチタスクプラットフォーム



消費電力量32.5%削減
※基本性能あたり



RV-2-3DH

3D基板外観検査装置



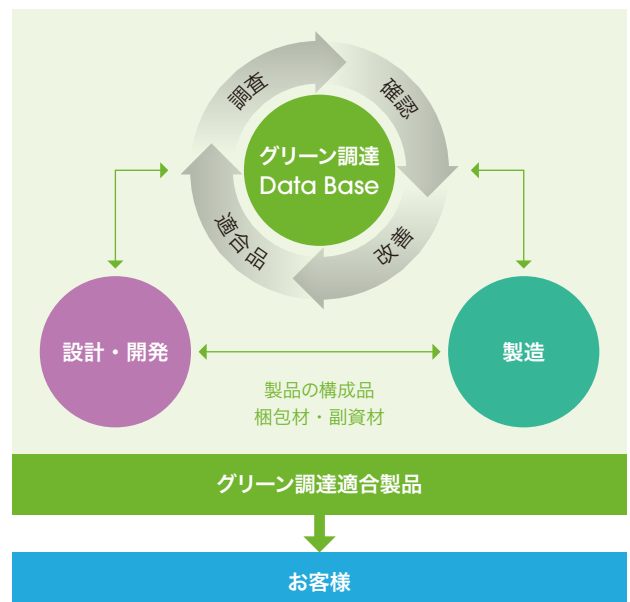
共用化部品比率85%

JUKIグループグリーン調達

JUKIグループでは、1998年に制定した「ECO MIND宣言」に基づいて、地球環境にやさしい環境保全活動に、お取引先とともに取り組んでいます。2011年からは物質管理の手段として、サプライチェーンを基本にした業界標準のJAMP AIS調査ツールを取り入れて、国内外の拠点で活動を展開しています。また、製造拠点においては、それらの入荷時に有害化学物質分析を行うことで、万一の有害物質混入を防いでいます。

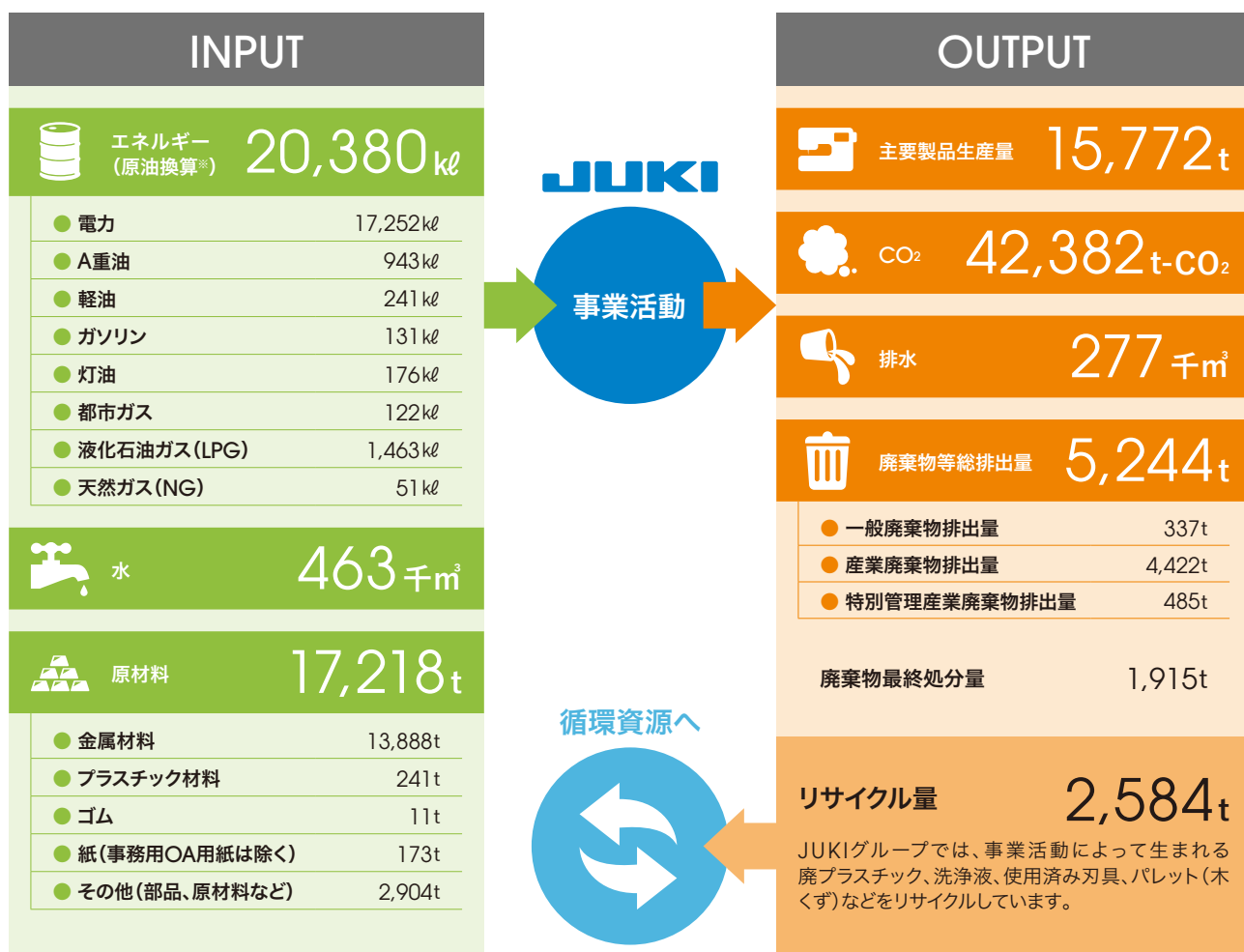
「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」は、2004年8月に初版を制定し、法改正などを反映させた見直しを行い、2016年に第8版目の改訂を行いました。8版目の改訂は、世界的に広がりつつある環境に影響のある物質の拡大に適應した管理基準の見直しと、サプライヤー様の環境管理システムの構築や運用の評価基準についても明確にしました。

* グリーン調達ガイドラインは、JUKIホームページでご紹介しています。



事業活動における環境目標の運営

JUKI製品は、部品や材料に貴重な資源を使用し、多くのエネルギー・資源を使って製造されています。このためJUKIグループでは、事業に関連する環境負荷を明らかにして、環境パフォーマンスの改善を進めています。



- 電力: 工場やオフィスで使用する電力会社からの購買電力
- A重油: 塗装施設の乾燥炉など、設備を動かすために使用
- 軽油: トラックの燃料
- ガソリン: 社用車の燃料
- 灯油: 暖房用(温風機)の燃料
- 都市ガス: 給湯、調理、暖房、冷房などの燃料
- 液化石油ガス: 常用発電機の燃料
- 天然ガス: 食堂での調理や浴室給湯などの燃料
- 金属材料、プラスチック材料、ゴム: 部品の材料
- 紙: 輸送用ダンボール、製品の梱包、荷崩れ防止用および製造工程での製品の打コン防止用

- CO₂: 電気や燃料の使用に伴い発生
- 一般廃棄物: 家庭や企業などから排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外のもの。ここでは事業活動の中で排出される生ごみなどの生活ごみや、紙ごみなどを含む
- 産業廃棄物: 工場などの事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、法律で定められた20種類の廃棄物。鋳物に使用した廃砂、パレット(木くず)、切削油、開発製品の試験研究に使用した試作機などを含む
- 特別管理産業廃棄物: 産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性が高く、人の健康や生活環境に被害を生ずる恐れがあるもので、特に厳重な管理が必要。古いコンデンサなどに含まれるPCBなど
- 最終処分: 廃棄物でリサイクルできないものを埋立処理すること
- リサイクル: 資源として再生して有効利用すること

このデータは、JUKIと国内・海外製造グループ会社の2018年度データについてまとめたものです。

※ 原油換算: 異なるエネルギー量を共通の尺度で比較するために発熱量を用いて、原油の量に換算したものの

JUKIのESG

「E」環境への取り組み

環境に対する取り組み事例

大田原工場での生産段階でのCO₂削減の取り組み

JUKI(株)大田原工場では、2018年11月からグリーン電力証書システムを利用した、CO₂総排出量削減に取り組んでいます。このシステムは、風力などの自然エネルギーにより発電した電気を「グリーン電力証書」という形で取得できる仕組みです。大田原工場は、年間84万kWhを取得し、年間CO₂総排出量の約10%にあたる約398t-CO₂を削減しています。



重機(上海)工業有での生産段階でのCO₂削減の取り組み

生産量増加に伴うCO₂排出量を低減するため、2018年10月にEPCサービスを活用し、新しいコンプレッサーへの交換を行いました。コンプレッサー5台(295kW)からインバータコンプレッサー(200kW)1台に更新し、CO₂の排出量を1年間で383t-CO₂削減できます。さらに、社員が利用する温水シャワーを、コンプレッサーの余熱を活用することでCO₂の排出量を年16t-CO₂削減できます。

※ EPCとは:Energy Performance Contracting
省エネルギーを目的として、サービスを受けられる契約

改善前



固定周波数コンプレッサ(295kW) 5台



改善後

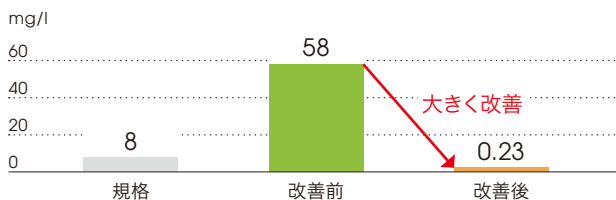


インバータコンプレッサ(200kW) 1台 余熱回収→保温水タンク 2台

JUKIベトナム(株)での有害化学物質管理

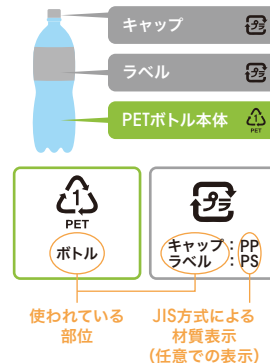
有害化学物質管理能力向上のため、分析機操作作業類標準書を作成し、関連部門全員に教育を行う体制を整えています。さらにベンダーとも有害化学物質非含有部品納入契約を締結し、管理を強化しています。取り組み例として、塗装前処理工程で発生する排水に対して、リン成分(P)の処理方法を改善しました。従来はリンの成分が58(mg/l)あり、規格を上回っていましたが、0.23(mg/l)となり、大きく減少できました。

リン(P)成分(mg/l)



JUKI会津(株)での省資源への取り組み

ベトナムなど、外国から実習に来ている社員に対して、日本でのごみの分別の教育を行っています。外国人実習生にとって、日本でのゴミの分別は難しく、特にペットボトルは、図のように細かく分類しますが、ボトルの材質が一見似ている洗濯洗剤の容器などは別の分別となるため、ルールを理解するまでに時間がかかります。こうした、教育を通じて、外国人研修生にも省資源の考え方を浸透させています。



新興重機工業有での排出物削減活動

汚水汚泥の排出作業を外部専門業者に委託して処理していますが、その方法を見直しました。汚水汚泥は水分を多く含むため重くなり、処分代もその分かかっていました。改善として、汚泥を棚の放置板に撒いて自然乾燥をさせることにしました。温度が低い時期は扇風機を利用して乾燥させるなどの工夫も実施しました。これにより月平均排出量を10%削減でき、乾燥前の3,654kgから乾燥後は3,289kgになりました。年間削減量も3,987kgに達し、費用も年間24,000元削減できました。

改善前

改善後



JUKI本社ビルでの電気使用合理化活動

経済産業省の関係団体である一般社団法人日本電気協会関東支部より、2018年度、電力の有効活用、省エネルギーの推進に顕著な実績のあった事業所として「JUKI本社ビル」が電気使用合理化の最優秀賞を受賞しました。多摩地区にある1万2千軒の工場・事業所の中から東京電力エナジーパートナー多摩支店の推薦および本協会の選考を経て、JUKI本社ビルを含め7社が選ばれました。JUKI本社ビルのCO₂排出量は、前年比15%削減しました。



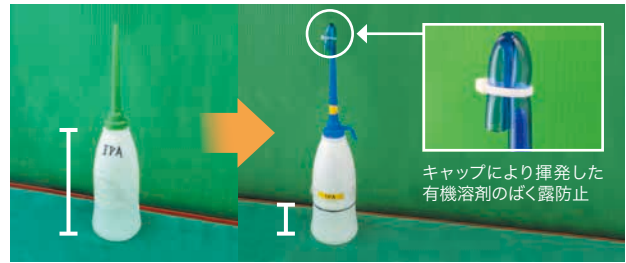
省エネルギーに貢献した皆さん

JUKI産機テクノロジー(株)での化学物質管理の改善

労働基準監督署から定期的に安全衛生に関する指導をいただき、有機溶剤の持ち込み量・使用量の削減と揮発によるばく露防止の取り組みを実施しています。工程への持ち込みは、容量400mlの専用容器に1/2(200ml)の箇所に目印を付け、半分に減らしました。また、容器に揮発防止のキャップを取り付け、揮発した有機溶剤のばく露を防止するなどの工夫をしています。

改善前

改善後



容器にほぼ満タンに入っていた約400ml

容器の半分(200ml)に目印をつけて工程内への持ち込み量を削減

「環境標語」を社内公募

社員の環境意識の高揚を図るために、環境月間である6月に「環境標語」を社内公募しました。環境活動の一環で、環境負荷低減や働き方改革による業務の効率化などの要素を盛り込んだ「環境標語」を募集し、本社・大田原工場・国内グループ会社より、前年(1,215通)を大きく上回る1,693通もの応募がありました。

この中から優秀な作品について表彰を行い、ポスターにして本社および国内のグループ会社に掲示しました。

今後は、海外のグループ会社へも活動を広げていきます。



2018年のポスター ▶

第2回 環境標語入選作品

2018年5月24日(株)総務部

最優秀賞

『技術』で攻めて『環境』を守る
JUKIの『未来』は地球と共に
 JUKI産機テクノロジー(株) スマートソリューション部 佐藤 祐太

優秀賞

小さな改善積み重ね 地球と企業に繋げる未来 一人ひとりが責任者
 JUKI(株) 大田原工場品質保証課 菊池 高弘

好奇心こそ技術の源、エコを見つめて イノベーション
 JUKI(株) 総務部 柳堂 雄芳

お客様・地球に優しく効率化 世界に増やそう JUKIファン
 JUKI(株) 総務部 加藤 恵子

いつも心に ECOMIND 地球に選ばれるソリューションパートナー
 JUKI広島(株) 総務部 森島 まゆみ




JUKIのESG

「S」社会への取り組み

社会とともに

グローバルに展開する企業として、各国の地域および社会と良好な関係を築き、良き企業市民として、社会の要請や期待に応えられるよう取り組んでいます。

新潟の小学校へミシンを寄贈

鈴民精密工業所(グループ会社)の創業100周年記念として、地域への感謝を込めて、近隣の小中学校3校(大河津小学校、寺泊小学校、寺泊中学校)にJUKI家庭用ミシン「HXL-G100B」を5台ずつ寄贈しました。授業の中で活用していただくために機能と操作の説明も実施しました。



2018年6月27日、長岡市立寺泊小学校へ寄贈

小学校社会科見学への協力

子供たちが「見て、体験して、学ぶ」ための「社会科見学」を、2018年は多摩市から2校、横手市から2校を受け入れました。会社の様々な施設、製品の工夫、ミシン体験を通して、働くための工夫やものづくりについて学習していただきました。



多摩市の本社の見学

秋田県のJUKI産機テクノロジーの見学

本社近辺のクリーンアップ活動を実施

「ごみゼロの日」5月30日の朝8時から30分間、約38名の社員ボランティアが参加し、本社から乞田川周辺のクリーンアップ活動を行いました。この活動は近隣の会社5社と連携して行っているもので、10年間継続しています。今後も美しい環境づくりに努めていきます。



たばこの吸い殻や空き缶、ペットボトルなど大量のごみを収集

「親子ソーイング教室」を通じた地域貢献

12年目の開催を7月27日(金)と8月18日(土)の2日間実施し、前年比約2倍の60組120名の親子に参加していただきました。JUKI80周年の地域還元の気持ちを込めて、募集の拡大、参加費無料、お土産付き、土曜日開催も設けて募集を行い、1週間で満席となりました。



7月27日の午前の会の参加者

地域防災活動への参加

火災、地震などの災害被害を最小限に止めるため、若手社員を中心に「自衛消防隊」を組成し、地域と連携した活動を行っています。日々の訓練の結果を競う「自衛消防操法大会」にも毎年参加し、2018年度の多摩市の大会では、女子隊が優勝、男子隊も三位入賞を収めました。



2018年度の自衛消防隊

施設・専門知識を生かした授業のサポート

服飾について学ぶ専門学校からの要請を受け、ショールームを活用した授業のお手伝いをしています。2018年は7校から310名の学生が来社しました。工業用・家庭用ミシンを通じて、工程に応じたミシンや縫いの知識、世界の縫製産業情報などについて説明を行っています。



東京家政学院大学の見学

社員とともに

JUKIグループが目指すのは、国籍・人種・性別・年齢を超えて「雇用と成長」の機会を提供するグローバル企業です。国内外を問わず多様な人材の活躍を可能とする教育制度や、働きやすい環境作りを通じて、事業発展と社員満足度の向上に努めています。

対象範囲を拡大した若手発表会の開催

技術系社員を対象に開催していた「3年目論文発表会」を「若手発表会」に名称を変え、職種を管理・営業・製造にも広げ、また中国・ベトナムの若手技術系社員も加えた37人が発表を行いました。三カ年教育の集大成として報告を行うことで、将来を担う社員の育成を図ります。



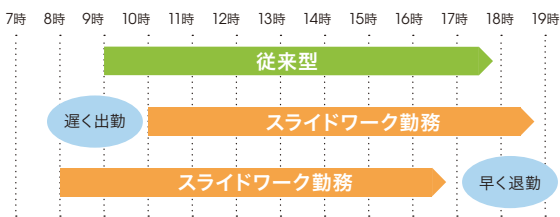
今年から加わった「管理職場」の若手が発表する様子(2019年5月9日・10日開催)

新たな労務制度の導入

多様な働き方の選択肢の一つとして、スライドワーク制度を2019年1月に導入しました。1日の所定労働時間を変えずに、出勤と退勤をスライドできる制度です。ワークライフバランスや属人的な業務の解消、残業時間の削減を狙っています。若手を中心とした働き方改革活動の中で提案され、実施されました。

スライドワーク制度

事前申請により、始業・終業時間を繰り上げ・繰り下げする働き方
所定労働時間(本社は7時間45分)は不変

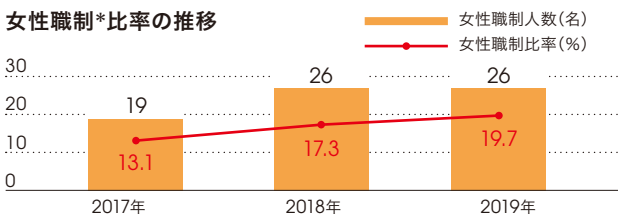


ダイバーシティの推進

性別・年齢・国籍にかかわらず、一人ひとりの多様性を活かし、多様な働き方を受け入れるダイバーシティマネジメントを推進しています。「女性活躍推進」「グローバル人材配置」「専門社員の活躍推進」の3つを柱に、組織パフォーマンスを最大化することを目指しています。

女性管理職比率 2016年 **4.3%** → 2020年(目標) **10%**

女性職制*比率の推移

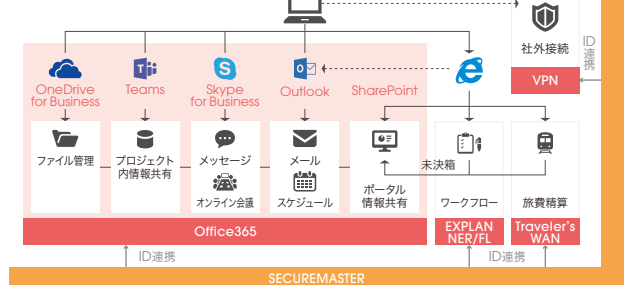


*職制: 補佐職・チーフ(係長)、サブチーフ、主任

グローバル共有の情報システムを導入

本社、グループ会社それぞれで部分最適な運用をしていた情報システムを廃止し、JUKIグループ共通の情報ツール「JUKI Global Platform(略称JGP)」を新たに導入しました。最新のIT技術を導入し業務の効率化、情報セキュリティの強化と共にシームレスな連携を推進します。

JGP全体システムイメージ



2018年9月の本社導入を皮切りにグループ全体へ展開

「健康経営」を2017年9月に宣言

「健康経営優良法人2019」(ホワイト500)に認定

「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として、制度開始の2017年から連続して認定されています。ベジファーストキャンペーンや健康指標をポイント化して優良職場や社員を表彰する制度の展開など、健康で活気ある組織作りを推進しています。

JGQMFを開催

品質経営&働き方改革について研鑽することを目的とした「JGQMF2018」を11月に開催しました。第一部は担当役員による講義にて、「100年企業に向けた品質経営」について学びました。第二部は優れた活動を全社へ水平展開するための発表会として、全グループ会社から選ばれたトップダウン5テーマ、QCサークル4テーマの発表を行い、約500名が聴講しました。



2018年11月に開催された「JGQMF」発表会

※ JGQMF...JUKI GLOBAL QUALITY MANAGEMENT FORUMの略

「S」社会への取り組み

グループ会社とともに(品質経営への取り組み)

JUKIは経営体制の高度化に向けた取り組みを行っています。JUKI本社、国内工場、国内外のグループ会社のすべてにおいて、品質保証、監査、業務管理の体制強化を図り、共通の「品質5カ条」を制定するなど、JUKIグループの経営体質を以前に増して強固なものとし、また、その一環として、JUKI株品質保証部を“グループ品質保証部”へ改称し、グループ会社との連携を密にした品質保証体制としました。

これまで…

グループ間の連携が弱く、お客様を最優先とした品質保証活動ができていないという問題があり、下記のように改善し、品質活動を推進します。

あらた 検めるポイント

1. 思い込みはしないで、現物で確認
2. 気づきができることは宝
3. 品質問題は最悪を想定しながら、事実確認をして絞り込む

取り組み内容

グループ一体となり、素早く行動し、素早く品質不具合を解消する仕組みを作る

- 製造グループ会社が一堂に会しての会合
- 各製造グループ会社に駐在形式で長期間入り込んだ品質管理改善活動の実施

各製造グループ会社間の製造工程の監視

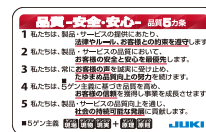
- ISO9001およびグループ会社QMSをベースにした品質管理活動の監査

「品質5カ条」の制定について

昨今、日本企業において、品質にかかる意識に起因する品質問題が多く発生しています。JUKIグループにおいても、品質保証部門や製造部門をはじめ様々な部門において品質意識に起因する問題により、お客様へご迷惑やご心配をおかけする懸念があります。これらを踏まえ、ものづくり企業において最も重要な基本のひとつである「品質」について、グループ全体にわたり意識の再徹底を図るため、この度、以下の「品質5カ条」を制定いたしました。

品質-安全-安心-品質5カ条

1. 私たちは、製品・サービスの提供にあたり、**法律やルール、お客様との約束を遵守**します。
2. 私たちは、製品・サービスの品質において、**お客様の安全と安心を最優先**します。
3. 私たちは、常にお客様の声を誠実に受け止め、**たゆまぬ品質向上の努力**を続けます。
4. 私たちは、*5ゲン主義に基づき品質を高め、**お客様の信頼を獲得し事業を成長**させます。
5. 私たちは、製品・サービスの品質向上を通じ、**社会の持続可能な発展**に貢献します。



*5ゲン主義:現場 現物 現実 + 原理 原則

2019年3月8日

グループ品質保証部/経営企画部

TOPICS

「グループ品質ミーティング」を定期開催

グループ品質保証部は、都度設定する現場(製造グループ会社)にて、グループ品質ミーティングを定期的で開催しています。

テーマは、問題を発生させないための取り組みや、発生した問題の早期解決事例の水平展開について取り上げています。

実施計画策定の骨子として、予防活動の仕組みや事例発表、最近の品質トラブル事例と残された課題の討議を掲げ、各グループ会社の優れた未然防止活動の仕組みや取り組み事例を共有化し、水平展開できるようにするなど、各拠点内だけで解決できない課題に対して責任範囲を超えた取り組みを推進支援しています。



お取引先とともに

お取引先とともに技術力の向上に努め、共存共栄を目指しています。また、説明会や研修会を通して、お取引先とのコミュニケーションを強化しています。

JUKI協力会会員にて新年会を開催

JUKI新年会を開催し、JUKI協力会会員など一般お取引先様・グループ事業関係のおお客様など123社150名と多数の方々にご参加いただきました。

今回はJUKI80周年を記念して、お客様への“感謝の会”と題して盛大に執り行う中、清原社長はじめ、JUKI役員、スタッフ一同、全員が感謝の気持ちでお取引先様と接し、さらなる親睦と絆を深めました。



(左から) 菱電商事(株)山崎副会長、旭日産業(株)児玉社長、JUKI(株)清原社長、シークス(株)梶原社長、水戸工業(株)成田会長

JUKI協力会を対象にした「研修会」と「表彰式」を開催

資材のお取引先で構成されるJUKI協力会の研修会を開催し、会員91社、96名にご参加いただきました。ヒストリーミュージアムも含めた大田原工場の工場見学に始まり、研修会では濱執行役員が「電子部品実装工場へのJUKIスマートファクトリーソリューションの提案」について、動画を交え講演を行いました。大田原工場のスマートファクトリーへの具体的な取り組み、また産装事業でお客様とともに取り組んだ最新のスマートファクトリーの事例など、参加された方々から好評をいただき、大変有意義な研修会にすることができました。研修会終了後には、清原社長より特にQCDCについて貢献いただいた6社に表彰盾を贈呈し、内梨専務より53社に保証納入認定証をお渡ししました。



株主・投資家とともに

株主や投資家に向けたタイムリーな情報公開を通し、経営の透明性を高めていきます。皆様からいただくご意見を参考に、ご期待に応えられるよう努めています。

株主総会の開催

毎年3月に定時株主総会を開催し、より多くの株主の皆様にご参加いただけるよう、集中日を避けるなどの工夫をしています。

2019年3月27日には、JUKI本社において「第104回定時株主総会」を開催し、多くの株主の皆様にご来場いただきました。

また、株主総会終了後には、恒例の主力製品見学会を実施し、出席された株主の皆様より熱心に質問する光景も見られ、充実した株主総会となりました。株主の皆様からいただいたご意見を今後の取り組みに反映させ、ご期待にお応えできるよう引き続き努力します。



IR決算説明会の開催

JUKIは、株主・投資家とのコミュニケーションを強化するために、適切な情報開示と理解促進に積極的に取り組んでいますが、この一環として機関投資家を対象とした決算説明会を年2回開催しています。

2019年2月14日、(株)日本投資環境研究所(中央区日本橋)で、2018年12月期の決算説明会を行い、「2018年12月期業績の概要と2019年度業績予想」および「中期経営計画-Value up 2022-(2019-2021年度)の取り組みと重点施策」について、説明を行いました。また、個人株主様からのお問い合わせへの対応や証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの個別取材に対応するなど、積極的な対話に努めています。



「S」社会への取り組み

お客様とともに

JUKIは、お客様の声を直接聞くことができるよう、サポート体制の充実に取り組んでいます。お客様との接点を増やすことで、お客様に満足いただける製品・サービスを提供し続けます。

工業用ミシン



Hempel 漢帛国際集团有限公司

<http://www.hempelgroup.com/>

総裁

高敏 Nancy さん

私たちの会社は、主に高級婦人服を約6,000人の従業員で縫製し、世界のお客様へ製品をお届けしています。

私たちのスローガンは①品質第一、②スピーディーな対応、③イノベーション、④社会的責任の4つで、その中でも全社員が“品質”を最優先に、高品質なものづくりを推進しています。

そのために、確実な指導、各工程の仕様・規格の理解、資材の速やかな供給を工場長の重要業務として、進捗フォローと監督に全精力を傾けています。

JUKIさんとのお付き合いは1992年の創業当初からで、導入台数は10,000台を超え当社の98%を占めています。JUKI製品は、私たちの方針と同じく品質が良く、技術要求も満たしています。生産効率の高さに加え、タイムリーに技術サービスを実施いただける点にも満足しています。

今後は、私たちが構築しているスマートファクトリーやプラットフォームにもJUKIさんの協力を期待しています。ともに発展し、win-winの関係で成功に結び付け、さらに関係を深めていきたいと思っています。

“高品質最優先が
JUKIミシンと合致しています”



漢帛国際社では、全社員が「3つのNO」「不良品排除」「不良品を生産しない」「不良品を流出させない」ことを合言葉に高品質への意識を高めています。

家庭用ミシン



パターンレーベル

<http://www.pattern-label.com/>

片貝 夕起 さん

小さいころから母の洋裁を見て育ったことで、ファッションへの興味を持ち、アパレルメーカーに就職し、パタンナー・デザイナーとしてのキャリアを積みました。出産を機に退社した後、息子のデニムパンツを作り始めたのをきっかけにホームソーイングを始めました。現在は、パターンレーベル(型紙のネット販売)、子供服などの制作本の執筆、ワークショップなどを行っています。

制作物は子供服をはじめ、レディス、メンズ、バッグ類などで、既製品のような完成度の高さや、表からは見えない箇所処理にもこだわりをもって制作しています。さらに、「機能美」と「使いやすさ」も追求し、お客様が制作過程でその技法を学べるようにしています。

ミシンは丈夫に早く制作できるツールとして、以前から活用していましたが、JUKIさんの職業用ミシンに出会い、高品質かつ使い勝手の良さに加え、薄物から厚物まできれいに縫製できるため、私の欠かせないパートナーになりました。

今は、主人と工房のスタッフでワークショップなどを運営していますが、参加された多くのお客様がとても喜んでくださり、幸せを感じています。今後も私たちだけではできないワクワクするようなイベントをJUKIさんとコラボしてやっていきたいと思っています。

“薄物から厚物まで縫える
JUKIミシンがお気に入りです♪”



夕起さんが主催するオリジナルパターンのネットショップ“Pattern Label”は日本全国のソーイングファンに支持されています。子供服の作り方の著作権は累計20万部を出版するほどの大人気です。

産業装置



日本電産 電気制御機器(青島)有限公司
<http://www.embraco.com.cn/>
 プロジェクトマネージャー
 朱小団 さん

私たちの会社は冷凍システム用コンプレッサーのメーカーです。生産量は年間3,700万台にのぼり、その製品は世界80カ国以上で使われています。

私たちが勤務する青島工場は2007年に設立され、現在約400人が働いています。製品の要となるプリント基板の製造工場として、高効率生産、ハイレベルな品質管理、納期厳守をモットーに、日々生産活動を行っています。

今から4~5年前、私たちの工場は人手不足に苛まれました。それに輪をかけてグループ企業からさらなる生産性向上を求められたのです。その時に導入したのが、JUKIさんの手挿入工程を自動化する異形部品挿入機でした。この設備導入が我々の生産の変化点になりました。装置導入後は、この工程で70%の省人化ができ、人に起因していた品質のバラツキも改善できました。同時に生産ラインのタクトが15%向上し、工場のスペースも10%節約できました。装置導入後も様々なサービス、サポートに助けられています。

JUKIさんには、より速く、よりフレキシブルな設備の開発を期待しています。そして、今後もより深い協力関係を築き、私たちの生産を支えていただきたいと思います。

“設備の汎用性・安定性に
 手厚いサポートが加わり百人力です”



日本電産 電気制御機器(青島)有限公司 生産現場
 会社外観

グループ事業



AIメカテック株式会社
<https://www.ai-mech.com/>
 ものづくり・品質本部製造部 主任技師
 堀田 大輔 さん

私たちの会社は、幅広い製品に活用されている「フラットパネルディスプレイ」などを作るための製造装置を開発・製造しているメーカーです。製品の中には60トンもある巨大装置もありますが、ミクロン単位の精度が求められる精密機器です。2016年7月に株日立製作所から新設分割し、AIメカテック(株)として、新たな一歩を踏み出しました。「AI」=「あい」と読む社名は、お客様への感謝と製品への「愛」に加え、Advanced and Innovative Technologyの意味を込めています。2018年7月には、プロセス開発センターを開設し、さらなる技術革新や事業領域の拡大に取り組んでいます。

JUKI大田原工場さんへの業務委託はフレーム加工から始まりましたが、現在ではユニットの組み付けも担っていただいています。当社での約1カ月にわたる研修の後、独自で治具を製作され、誰でも高品質の組み付けができるように工程改善された作業標準書も作成されています。製造力の確かさに加え、現状に満足しない改善姿勢が、私たちの求めるQCDに応えられる要因ではないかと思えます。

同じ「ものづくり」の会社として、私たちがさらなるグローバル企業へと躍進するために、生産技術、品質保証も巻き込んだJUKIさんの総合力を生かしたサポートを期待します。

“「性能・品質世界一」
 同じ志を持つものづくり企業として
 全幅の信頼で託せるのがJUKIです”



プロセス開発センター

高精度IJP装置

「G」ガバナンスの取り組み

JUKIグループのコーポレート・ガバナンス運営体制

コーポレート・ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化に努め、透明性の高い経営を目指します。

コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、また、ステークホルダーの信頼にお応えするため、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題の一つと位置付け、その整備と充実に努めています。

また、適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めています。

JUKIの取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しています。また、執行役員制度を導入し、業務執行の円滑化と責任の明確化を図っています。

取締役6名のうち、2名を社外取締役とすることで、取締役および取締役会の経営監視機能を高めるとともに、社外からの意見を経営に積極的に取り入れる体制を強化しています。

また、取締役会の下に経営戦略会議を組織し、当社およびグループ会社からなる企業集団に関して、取締役をはじめ担当執行役員や担当部門責任者も出席し、経営に関する基本方針や戦略などについて様々な角度から審議することで、より適切な意思決定および業務の執行が可能となる体制をとっています。

リスク管理体制としては、リスク管理会議、危機対応タスクフォースを設置しています。

内部監査の組織としては、グループ監査部を設置し、当社各部門およびグループ会社に対する業務監査を行っています。また監査役監査は、監査役会が定めた監査方針や業務分担などに従い、グループ監査部および会計監査人と相互連携を取りながら実施しています。監査役を補佐する組織としては、監査役室を設置しています。

コンプライアンス

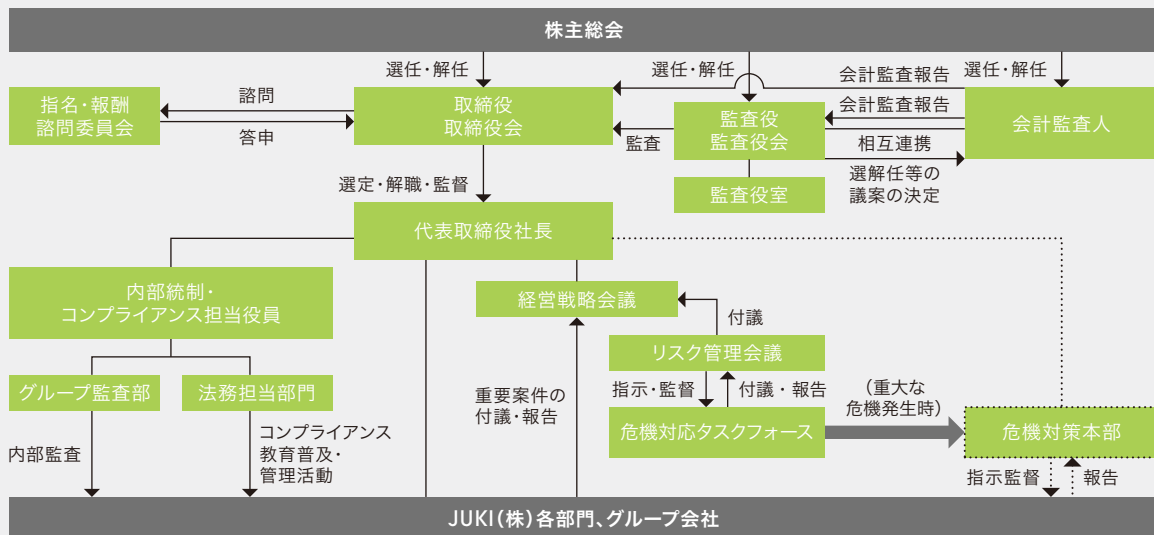
JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置付けています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKIグループ社員行動規範「10カ条」」に則って行動するよう、徹底しています。従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議では、全社的リスクおよび重要リスクを管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL（製造物責任）に関わる問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生（リスクの顕在化）に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。

さらに重大な危機が発生した場合には「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応を行います。

コーポレート・ガバナンス体制図



役員紹介

(2019年4月1日現在)

取締役



清原 晃

代表取締役社長
兼 JUKIオートメーションシステムズ㈱
代表取締役社長



内梨 晋介

取締役専務執行役員
「グローバル コ・オペレートセンター
(財務経理部)担当」
兼「事業センター(グループ事業カンパニー)担当」
兼「生産センター担当」



見浦 利正

取締役常務執行役員
「グローバル コ・オペレートセンター
(人事部、総務部)担当」
兼「秘書室担当」
兼「グループ監査部担当」
兼「グループ品質保証部」
兼「内部統制・コンプライアンス担当」



浜外 剛重

取締役常務執行役員
「事業センター
(縫製機器&システムユニット)担当」
兼 縫製機器&システムユニット長
兼「事業センター
(カスタマービジネスカンパニー)担当」



長崎 和三

社外取締役
(独立役員)



堀 裕

社外取締役
(独立役員)

監査役



鈴木 正彦
常勤監査役



田中 昌利
社外監査役



磯部 康明
社外監査役
(独立役員)

常務執行役員



後藤 博文
常務執行役員



阿部 裕
常務執行役員



石橋 次郎
常務執行役員



執行役員

二瓶 勝美
執行役員



濱 学洋
執行役員



小西 浩樹
執行役員



新田 実
執行役員



松本 潔
執行役員



貫井 邦夫
執行役員



中尾 憲二
執行役員



日塔 隆
執行役員



安西 洋
執行役員

財務データ

2年間の主要財務データ(連結)

(単位：百万円)

	2017年度 2017年12月期	2018年度 2018年12月期
損益状況 (会計年度)		
売上高	103,659	112,064
（海外売上高比率）	83.3%	84.7%
売上総利益	31,911	34,143
営業利益	8,156	9,148
経常利益	7,839	8,385
親会社株主に帰属する当期純利益	5,642	6,640
設備投資額	2,312	2,721
減価償却費	2,343	2,525
研究開発費	4,781	5,675
財政状態 (事業年度末)		
総資産	110,554	119,121
純資産	33,343	37,241
自己資本	32,726	36,529
財務指標		
自己資本比率	29.6%	30.7%
自己資本当期純利益率 (ROE)	18.9%	19.2%
キャッシュ・フロー状況 (会計年度)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,488	2,682
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,756	△ 2,390
フリーキャッシュ・フロー	8,732	292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,373	967
1株当たり情報		
1株当たり当期純利益 (EPS)	192.61円	226.68円
1株当たり配当金 (DPS)	35円	30円
1株当たり純資産額 (BPS)	1,117.07円	1,246.93円
非財務データ		
従業員	5,899人	5,891人
海外従業員比率	58.2%	57.8%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	2017年度 2017年12月期	2018年度 2018年12月期
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,407	7,324
受取手形及び売掛金	32,398	33,465
商品及び製品	25,542	28,885
仕掛品	4,062	4,796
原材料及び貯蔵品	7,048	9,835
繰延税金資産	1,116	1,314
その他	2,925	2,825
貸倒引当金	△ 397	△ 387
流動資産合計	79,102	88,059
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,452	11,890
機械装置及び運搬具（純額）	3,211	3,411
工具、器具及び備品（純額）	1,044	1,053
土地	6,459	6,362
リース資産（純額）	338	315
建設仮勘定	38	107
有形固定資産合計	23,545	23,141
無形固定資産	1,672	1,992
投資その他の資産		
投資有価証券	3,225	2,563
長期貸付金	2	0
長期前払費用	248	260
繰延税金資産	887	1,195
退職給付に係る資産	1,171	1,303
その他	2,311	2,007
貸倒引当金	△ 1,612	△ 1,402
投資その他の資産合計	6,234	5,928
固定資産合計	31,451	31,062
資産合計	110,554	119,121

	2017年度 2017年12月期	2018年度 2018年12月期
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,028	11,145
電子記録債務	4,020	5,140
短期借入金	34,548	35,901
リース債務	98	101
未払金	1,132	740
未払費用	3,537	3,557
未払法人税等	666	1,115
賞与引当金	16	38
設備関係支払手形	164	191
為替予約	242	-
その他	1,132	1,336
流動負債合計	55,589	59,267
固定負債		
長期借入金	15,668	16,153
リース債務	237	223
役員退職慰労引当金	61	68
退職給付に係る負債	5,207	5,582
その他	446	584
固定負債合計	21,621	22,612
負債合計	77,211	81,880
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	2,035	2,035
利益剰余金	13,994	19,610
自己株式	△ 606	△ 607
株主資本合計	33,468	39,082
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,016	458
為替換算調整勘定	△ 1,966	△ 2,973
退職給付に係る調整累計額	208	△ 38
その他の包括利益累計額合計	△ 742	△ 2,552
非支配株主持分	617	711
純資産合計	33,343	37,241
負債純資産合計	110,554	119,121

財務データ

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2017年度 2017年12月期	2018年度 2018年12月期
売上高	103,659	112,064
売上原価	71,748	77,921
売上総利益	31,911	34,143
販売費及び一般管理費	23,755	24,995
営業利益	8,156	9,148
営業外収益		
受取利息	62	44
受取配当金	154	157
受取手数料	223	202
貸倒引当金戻入益	8	228
その他	392	473
営業外収益合計	840	1,106
営業外費用		
支払利息	944	805
為替差損	93	980
その他	118	82
営業外費用合計	1,157	1,868
経常利益	7,839	8,385
特別利益		
固定資産売却益	39	17
特別利益合計	39	17
特別損失		
固定資産除売却損	47	50
事業再編損	102	—
その他	0	—
特別損失合計	151	50
税金等調整前当期純利益	7,727	8,353
法人税、住民税及び事業税	1,319	1,749
法人税等調整額	709	△ 175
法人税等合計	2,029	1,573
当期純利益	5,697	6,780
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	54	139
親会社株主に帰属する当期純利益	5,642	6,640

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2017年度 2017年12月期	2018年度 2018年12月期
当期純利益	5,697	6,780
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	177	△ 559
為替換算調整勘定	318	△ 1,028
退職給付に係る調整額	180	△ 247
その他の包括利益合計	675	△ 1,834
包括利益	6,373	4,945
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,307	4,829
非支配株主に係る包括利益	66	115

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2017年度 2017年12月期	2018年度 2018年12月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,727	8,353
減価償却費	2,343	2,525
事業再編損	102	-
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△ 13	△ 199
賞与引当金の増減額 (△は減少)	0	21
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	44	367
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△ 19	△ 193
受取利息及び受取配当金	△ 216	△ 201
支払利息	944	805
為替差損益 (△は益)	△ 199	△ 28
有形及び無形固定資産除売却損益 (△は益)	8	32
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 1,520	△ 2,153
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,157	△ 8,035
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,989	2,515
割引手形の増減額 (△は減少)	△ 50	-
その他	△ 1,952	747
小計	12,348	4,557
利息及び配当金の受取額	211	201
利息の支払額	△ 944	△ 805
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 1,125	△ 1,271
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,488	2,682
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 2,141	△ 2,633
有形及び無形固定資産の売却による収入	202	148
投資有価証券の取得による支出	△ 0	△ 1
貸付金の回収による収入	78	1
その他	105	94
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,756	△ 2,390
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△ 7,288	2,377
長期借入れによる収入	8,611	6,754
長期借入金の返済による支出	△ 10,633	△ 6,928
自己株式の取得による支出	△ 0	△ 0
配当金の支払額	△ 584	△ 1,022
セールアンド割賦バック債務返済による支出	△ 173	△ 32
その他	△ 303	△ 179
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,373	967
現金及び現金同等物に係る換算差額	83	△ 293
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 1,557	965
現金及び現金同等物の期首残高	7,892	6,335
現金及び現金同等物の期末残高	6,335	7,301

沿革

“日本から世界180カ国へ”グローバル化の歩みをまとめました。
また、創業より、「技術開発型企业」としてお客様のニーズを捉え、
一貫して取り組んできたイノベティブな製品の歴史をご紹介します。

1940s

1950s

1960s

1970s

1980s

東京重機工業株式会社

1938
東京都の機械業者
が出資「東京重機
製造工業組合」
発足



1947
家庭用ミシン
第1号機完成
(HA-1)



1953
工業用ミシンに
参入、第1号機を
発売(DDW-II)



1957
単軸回転天秤発明
恩賜発明賞を受賞



1961
電子計算機周辺
機器の製造販売を
開始



1964
東証第一部に
上場

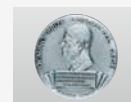
1970
JUKI初の海外
販売会社を香港に
設立
(現・JUKI
(HONG KONG)
LTD.)



1972
西ドイツに
ヨーロッパの拠点
となる販売会社を
設立
(JUKI (EUROPE)
GMBH)



1981
工業用ミシン本部
がデミング賞受賞
(実施策事業部賞)



1987
SMTの分野に参入
(産業装置事業)
1号機の製造販売
を開始
(KP-350)



1945
ミシン製造業転換
への許可がおりる

1971
栃木県大田原市に
工業用ミシンの
製造工場
「大田原工場」竣工



1974
アメリカに販売
会社を設立
(現・JUKI
AMERICA, INC.)



1982
JUKI香港に
シンガポール
事務所を開設



1988
JUKI株式会社
社名変更



家庭用ミシン

1947
HA-1



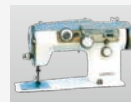
1953
ロータリックス
HW-62B



1959
ロータリックス
HZ-25



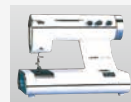
1965
ロータリックス
HZD-731



1968
2色同時
編込装置付編機
K-811



1977
フルフル
HXL-11



1978
電子フローラ
HXL-550



1985
ザ・ミシン
HXL-7000



1988
ザ・ミシン創ing
HXL-8800



工業用ミシン

1953
本縫ミシン
DDW-II型



1958
大門止めミシン
LK-23



1964
インターロックミシン
MO-357
オーバーロックミシン
MO-352



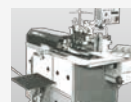
1969
本縫自動糸切ミシン
DDL-555-II



1979
本縫ボタン付ミシン
LK-982



自動玉縁縫機
APW-116



1986
ジューキ
ハンガーシステム
JHS-201

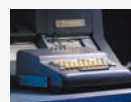


1987
クイックレスポンス
ソーイングシステム
QRS



電子・産業装置

1964
カード穿孔機
H-163



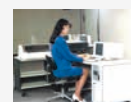
1973
カード穿孔機
H-1592



1976
ラインプリンタ
5240



1982
データエントリー装置、
漢字キーツフロッピー
1860



1988
エントリー機
(導入用)
KP-350



1990s

2000s

2010s

JUKI株式会社

1990
JUKI初の海外工場を中国上海市に合併で設立 (家庭用ミシン製造工場・上海重機ミシン)



1995
シンガポールにアジア販売を統括する会社を設立 (現・JUKI SINGAPORE PTE. LTD.)



1995
中国に工業用ミシンの部品製造・調達を行う会社を設立 (現・重機(寧波)精密機械)



2000
全額出資の工業用ミシンの製造工場を上海に設立 (重機(上海)工業)



2001
中国を統括する全額出資の子会社を設立 (重機(中国)投資)



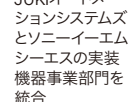
2005
ポーランドにヨーロッパの販売統括拠点を設立 (JUKI CENTRAL EUROPE SP.ZO.O.)



2009
多摩市鶴牧に建設した新社屋へ移転 (12月)



2013
産業装置部門を独立させJUKIオートメーションシステムズを設立



2017
秋田3社を統合して「JUKI産機テクノロジー」を発足



1994
中国に販売会社を設立 (東京重機国際貿易(上海))

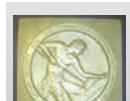
1995
ベトナムに工業用ミシンの部品工場を設立 (現・JUKI (VIETNAM) CO.,LTD.)



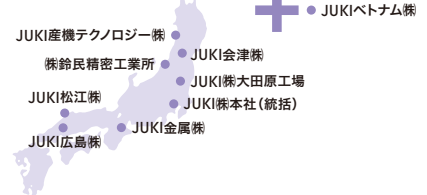
1995
工業用ミシンの製造工場を合併で中国廊坊に設立 (新興重機工業)



1997
工業用ミシンの「下糸自動供給装置」の開発が「機械振興協会賞」を受賞



2015
日本とベトナムにある製造工場のものづくり力を結集させ、グループ事業を開始



1990
シュプール90 TL-90



1993
アローネ HZL-008



1997
jupre HZL-009



2001
ジュレープ HZL-010



2003
家庭用コンピューターミシン HZL-E60



2005
ロックミシン RS-10



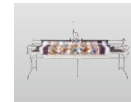
2009
エクシード キルトスペシャル HZL-F600JP



2013
ロックミシン シュルル MO-1000ML



2015
キルト専用ミシン フレームタイプ TL-2200QVP



2017
HY-SPEC SL-700EX



1995
自動玉縁縫機 APW-296



1996
ほつれ防止単環ボタン付 MB-377



ドライヘッド本縫自動糸切ミシン DDL-5700N-7



2000
ドライヘッド電子単環ボタン付 MB-1800S



2003
ドライヘッドオーバロック MO-6100D



2004
単環根巻きボタン付 AMB-289



2007
斜めポケット付けミシン APW-896



2010
1本針ベルトループ付けミシン AB-1351



2016
デジタル本縫自動糸切りミシン DDL-9000C



2017
1本針 CNCミシン AMS-251



1992
大型汎用機 KC-810



1994
半自動スクリーン印刷機 KS-180



1997
高速チップマウンタ KE-750 高速汎用マウンタ KE-760



2000
高速チップマウンタ KE-2010 高速汎用マウンタ KE-2020



2008
高速モジュラーマウンタ FX-3



2011
後工程マウンタマルチタスクプラットフォーム JM-10



2013
高速コンパクトモジュラーマウンタ RX-7



2014
自動倉庫インテリジェントストレージマネジメントシステム ISM2000



2017
高速スマートモジュラーマウンタ RS-1



2018
3D基板外観検査機 RV-2-3DH



データセクション

JUKIのグローバル拠点

(2019年6月1日現在)



1 4 1 2 1 2 JUKI株
 JUKIオートメーションシステムズ株
 JUKI販売株
 JUKIゼネラルサービス株
 JUKI家庭製品お客様センター株
4 3 JUKI株大田原工場
1 2 JUKI産機テクノロジー株
7 5 JUKI松江株
8 6 重機(上海)工業有
9 新興重機工業有

製造拠点

日本

① JUKI産機テクノロジー株	秋田県横手市	チップマウンタ等の製造、グループ事業関連のユニット・部品製造
② JUKI会津株	福島県喜多方市	ロストワックス・MIM 製法部品の製造
③ 株鈴木精密工業所	新潟県長岡市	グループ事業関連の部品製造
④ JUKI株大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの製造
⑤ JUKI金属株	三重県大台町	グループ事業関連の部品製造
⑥ JUKI広島株	広島県三次市	銃鉄铸件等の製造
⑦ JUKI松江株	島根県松江市	グループ事業関連の部品製造
⑧ JUKI松江株	島根県松江市	工業用ミシン等の製造
⑨ JUKI松江株	島根県松江市	グループ事業関連の部品製造

海外

⑧ 重機(上海)工業有	中国・上海	工業用ミシン等の製造
⑨ 新興重機工業有	中国・河北省	チップマウンタのフィードの製造
⑩ 上海重機ミシン有	中国・上海	工業用ミシン等の製造
		家庭用ミシン等の製造

⑪ 重機(寧波)精密機械有	中国・浙江省	工業用ミシン部品等の製造、調達
⑫ JUKIベトナム株	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシン等の製造、ロストワックス部品の製造
		グループ事業関連の部品製造

開発拠点

日本

① JUKI株	東京都多摩市	工業用ミシン、家庭用ミシン、チップマウンタ等の製品開発、システム開発
② JUKI産機テクノロジー株	秋田県横手市	チップマウンタ、電子機器等の開発、グループ事業関連の開発
③ JUKI株大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの開発
④ JUKIオートメーションシステムズ株	東京都多摩市	チップマウンタ等の開発
⑤ JUKI松江株	島根県松江市	工業用ミシンの開発

海外

⑥ 重機(上海)工業有	中国・上海	工業用ミシンの開発
⑦ JUKIベトナム株	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシンの開発
⑧ JUKIセントラルヨーロッパ株	ポーランド・ワルシャワ	工業用ミシンの開発
⑨ JUKIアメリカ株	アメリカ・フロリダ	工業用ミシンの開発



GLOBAL



JAPAN



10 上海重機マシン(有) 12 7 JUKIベトナム(株) 3 4 重機(中国)投資(有) 東京重機国際貿易(上海)有) 6 JUKIシンガポール(株) 8 12 JUKIセントラルヨーロッパ(株) 9 14 JUKIアメリカ(株) 15 JUKIオートメーションシステムズINC.

販売拠点

日本

- ① JUKIオートメーションシステムズ(株) 東京都多摩市 チップマウンタ等の販売
 - ② JUKI販売(株) 東京都多摩市 工業用マシン、家庭用マシン等の販売
- ◎ 支店/営業所/サービスセンター等

海外

- ③ 重機(中国)投資(有) 中国・上海 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 持株会社・中国拠点統括
- ④ 東京重機国際貿易(上海)有) 中国・上海 チップマウンタ等の販売
- ⑤ JUKI香港(株) 中国・香港 工業用マシン等の販売
- ⑥ JUKIシンガポール(株) シンガポール・ベンデミア 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 (主要拠点：インドネシア、カンボジア、ミャンマー他6カ国)
- ⑦ JUKIタイランド(株) タイ・バンコク 工業用マシン等の販売
- ⑧ JUKIマシナリー・バングラデシュ(株) バングラデシュ・ダッカ 工業用マシン等の販売
- ⑨ JUKIマシナリー・ベトナム(株) ベトナム・ホーチミン 工業用マシン、家庭用マシン等の販売
- ⑩ JUKIインド(株) インド・バンガロール 工業用マシン、チップマウンタ等の販売
- ⑪ JUKI ISMT アジア(株) タイ・チョンブリ チップマウンタ等の販売
- ⑫ JUKIセントラルヨーロッパ(株) ポーランド・ワルシャワ 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 (その他拠点：トルコ、ロシア、ベラルーシ)
- ⑬ JUKIイタリア(株) イタリア・ミラノ 工業用マシン、家庭用マシン等の販売

- ⑭ JUKIアメリカ(株) アメリカ・フロリダ 工業用マシン、家庭用マシン等の販売 (その他拠点：メキシコ、ペルー、コロンビア)
 - ⑮ JUKIオートメーションシステムズINC. アメリカ・ノースカロライナ チップマウンタ等の販売
 - ⑯ JUKIオートメーションシステムズGmbH. ドイツ・デュルンベルク チップマウンタ等の販売
- ◎ JUKI直営の支店/営業所/サービスセンター等
● 主な代理店

その他拠点

日本

- ① JUKIゼネラルサービス(株) 東京都多摩市 ビル管理・リフォーム・印刷他サービス
- ② JUKI家庭製品お客様センター(株) 東京都多摩市 家庭用マシンのサービス対応

主要拠点数

	日本	海外	合計
● 製造	7	5	12
● 開発	5	4	9
● 販売	2	14	16
● その他	2	0	2

データセクション

会社概要および株式情報

(2018年12月31日現在)

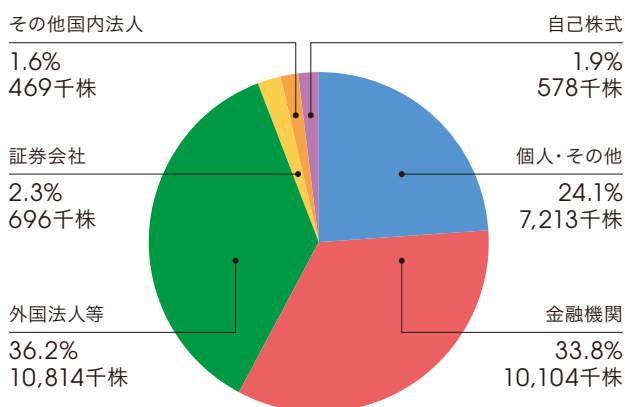
会社データ

商号	JUKI株式会社
創立	1938年12月15日
代表者	代表取締役社長 清原 晃
資本金	180億4,471万円
主要事業所	本社: 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1 TEL 042-357-2211 大田原工場: 〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863 TEL 0287-23-5111
決算期	12月31日
定時株主総会	3月
従業員	5,891名(連結)、878名(単体)
連結子会社	26社

株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	29,874,179株
株主数	9,938名
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部(貸借銘柄)
証券コード	6440
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

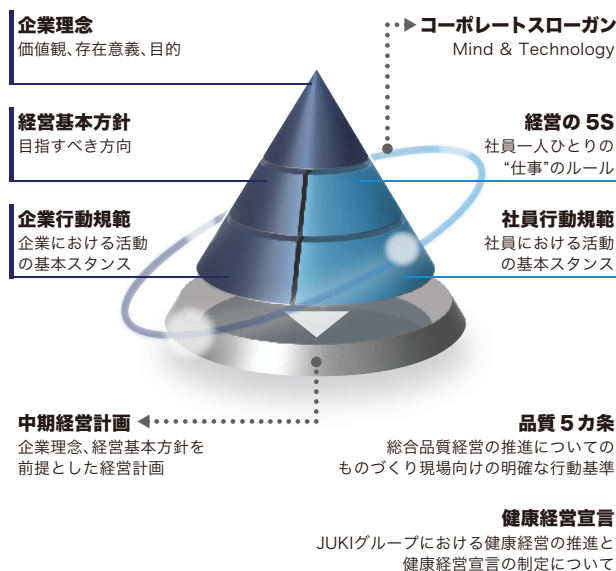
所有者別株式分布状況



編集方針

JUKIコーポレートレポート2019は、会社案内と環境報告書の要素を中心に1冊に統合した報告書です。今回発行するレポートでは、当社グループの事業や価値創造について、お客様や株主・投資家をはじめステークホルダーの皆様にご理解いただくため、内容を拡充してお届けします。

グループ企業理念体系図



企業理念

1. JUKIは、ここに集い、人々のしあわせを実現し、社会に貢献する
1. JUKIは、技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す

経営基本方針

1. 総合品質経営を推進する
1. イノベーティブ(革新的)で活気のある人と組織をつくる
1. 国際社会に適合する経営を行う

コーポレートスローガン

Mind & Technology

見通しに関する注意事項

本レポートに記載されている、JUKI株式会社および連結子会社の計画、目標、戦略などは、編集時点における見通しであり、これらは、入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。従って、これらの業績見通しは、将来の業績を保証するものではなく、様々な重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。

Mind & Technology



JUKI株式会社
〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1
TEL 042-357-2211
<https://www.juki.co.jp>

